

ユーザーマニュアル

ServerView Suite BX400 Remote Management

Issue / 発行日 7/18/2012

Category / カテゴリ PRIMERGY

Content / 内容 オンラインヘルプ
バージョン 6.4x

Use / 使用レベル external / 外部

Pages / ページ 112

目次

BX400 MMB S1ヘルプシステムの目次	3
VIOM Manager	7
アイコン概要 (BX900/400)	8
訳語/用語集	9
ダッシュボード	19
状態の概要	21
システムユニット	21
フロントサイドI/Oモジュール	23
マネジメントブレード	24
サーバブレード	27
ストレージブレード	33
GbE (Ethernet) コネクションブレード	35
イーサネットパススルーコネクションブレード	39
SASコネクションブレード	41
FCスイッチブレード	43
FCパススルーコネクションブレード	47
InfiniBandコネクションブレード	48
Brocade VDX 2730コネクションブレード	52
Cisco Nexus B22コネクションブレード	53
リアファンユニット	55
電源ユニット	55
無停電電源装置 (UPS)	57
搭載コンポーネント概要	58
システムイベントログ – システムイベントログ	58
システムイベントログ – 監査ログ	59
システムイベントログ – 設定	60
システム情報の保存	61
不具合発生時の情報の保存	61
LCDパネル – メッセージ	62
LCDパネル – PIN	62
フロントサイドI/O管理	63
電源管理	64

ローカルユーザー	71
新しいユーザー	72
グローバルユーザー	76
ユーザーセッション情報	81
ダッシュボードアクセス	82
OSのインストール	82
インストールベースの変更	87
バックアップ/リストア - BIOS	89
バックアップ/リストア - iRMC	90
アセットタグ管理	91
ファームウェアアップデート	92
サーバ証明書	94
ユーザー証明書	95
サービスLAN	96
管理LAN	97
AuDi-MIP	102
SNMP	105
リモート通知	106
日付と時刻	108
更新	109
言語	110
基本設定ウィザード	110

BX400 MMB S1ヘルプシステムの目次

Web UIウィンドウの構造

詳細モードでは、Web UIウィンドウには合計5つのフレームがあります：

1. バナーフレーム
2. 状態フレーム
3. ナビゲーションフレーム
このフレームは、フロントビュー、リアビュー、およびナビゲーションツリーで構成されています。ナビゲーションツリーでコンポーネントを選択している場合、「ヘルプ」→「このページ」（バナーフレームの右上）を選択すると、該当するヘルプテキストが表示されます。使用可能なヘルプテキストの概要は、「使用可能なヘルプテキスト」を参照してください。
4. メインフレーム

5. ボトムフレーム

各フレームの詳細は、ユーザーマニュアル『PRIMERGY BX400ブレードサーバシステム ServerViewマネジメントブレード S1ユーザーインターフェース説明書』の「Webユーザインターフェース」の章に記載されています。

ハードウェアのインストールと起動の詳細は、オペレーティングマニュアル『PRIMERGY BX400 S1ブレードサーバシステムユニット』に記載されています。

使用可能なヘルプテキスト

注意:

- 選択したヘルプテキストからこの概要に、様々な方法で戻れます。特定のページを右クリックして「戻る」オプションを使用するか、または Backspaceキーを押すだけでも戻れます。 (Web UIのみ)
- VIOM Manager**のヘルプテキストは、ここで参照できます。
- すべてのWeb UIアイコンの概要は、ここで確認できます。
- PRIMERGY BXシステムのコンテキストで使用される略語の展開と説明の概要は、ここで参照できます。
- SM CLP** インターフェースと概念。

コンポーネント

- ダッシュボード
ダッシュボードに一般情報を表示します。
- ブレードシステム
ブレードシステムの状態の概要が表示されます。
 - システムユニット
システムユニットの情報と設定の詳細が表示されます。
 - フロントサイドI/Oモジュール
モジュール情報を指定します。
 - マネジメントブレード
使用可能なマネジメントブレードの詳細が表示されます。
 - サーバブレード
使用可能なサーバブレードの詳細が表示されます。
 - ストレージブレード
使用可能なストレージブレードの詳細が表示されます。
 - コネクションブレード
使用可能なコネクションブレードの詳細が表示されます。
 - GbE (Ethernet) コネクションブレード
 - イーサネットパススルーコネクションブレード
 - SASコネクションブレード
 - FCスイッチブレード
 - FCパススルーコネクションブレード
 - InfiniBandコネクションブレード

- Brocade VDX 2730コネクションブレード
- Cisco Nexus B22コネクションブレード
- リアファンユニット
使用可能なリアファンユニットの詳細を表示します。
- 電源ユニット
使用可能な電源ユニットの詳細が表示されます。
- 無停電電源装置
使用できるUPSの詳細を表示します。

情報／操作

- 情報
 - 搭載コンポーネント概要
使用可能なモジュールの基本的なFRU情報が表示されます。
 - システムイベントログ
 - システムイベントログ
イベントログのエントリが表示されます。
 - 監査ログ
監査ログエントリを表示します。
 - 設定
システムイベントログと監査ログを設定する方法を示します。
 - システム情報の保存
システム情報の生成／表示／保存ができます。
 - 不具合発生時の情報の保存
システム情報2の生成／表示／エクスポートができます。
- 操作
 - LCDパネル
 - メッセージ
LCDパネルにメッセージを送信できます。
 - 暗証番号
LCDパネルを保護するための暗証番号を設定できます。
 - フロントサイドI/O管理
フロントサイドI/Oモジュールとサーバブレード間の割り当てを示します。
 - 電源管理
電源管理の情報と設定が表示されます。
 - ユーザー管理
 - ローカルユーザー
ローカルユーザーのリストが表示されます。
 - 新しいローカルユーザー アカウント
新しいローカルユーザー アカウントを追加できます。
 - グローバルユーザー
グローバルユーザーを統合できます。
 - ユーザーセッション情報
現在サインインしているユーザーのリストが表示されます。

- ダッシュボード

ダッシュボードのグローバルな使用を有効または無効にします。
- - インストール管理
 - OSのインストール

OSを選択してインストールする方法を示します。
 - インストールベースの変更

新しいOSエディションを検出するインターフェースです。
 - バックアップ/復元管理
 - BIOS

搭載されているサーバブレードのBIOS設定を管理します。
 - iRMC

搭載されているサーバブレードのiRMC設定を管理します。
 - アセットタグ管理

アセットタグ管理の情報を示します。
 - フームウェアアップデート

BIOSとiRMCに関するMMB設定をアップデートできます。
 - 証明書の操作
 - サーバ証明書

証明書情報と証明書署名要求を管理します。
 - ユーザー証明書

ユーザー証明書の生成と保存ができます。

設定

- システムユニット
 - ネットワークインターフェース
 - サービスLAN

サービスLANポートの設定を定義します。
 - 管理LAN

管理LANポートのIPアドレス、VLANおよびIPフィルタリング設定を定義します。
 - AuDi-MIP

IPアドレスを自動的に配布できるようにします。
 - SNMP

コミュニティ、トラップ送信、SNMPv3ユーザー、トラップ設定などのSNMP設定を定義します。
 - リモート通知

イベント通知とメール送信の設定を定義します。
 - 日付と時刻

必要に応じてブレードシステムの日付／時刻の設定とネットワーク同期を定義します。
- 表示の更新

必要に応じてユーザーインターフェースの自動更新設定を定義します。
- 言語

WebインターフェースとLCDパネルの表示言語を設定します。

- 基本設定ウィザード
BX400を最初に起動するための基本設定を行います（クイック設定）。

VIOM Manager

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

VIOM Managerは、I/O動作に関してサーバブレードを仮想化するために使用されます。このためにMMBを搭載し、VIOMデータテーブルを保存したり、インベントリデータにクエリを実行したりします。VIOM ManagerはMMBをリモートツールとして利用し、サーバブレードのブートプロセスの開始に使用します。

既知の場合、VIOM Managerのソフトウェア識別子（GUID）とVIOM Managerが実行されている管理ステーションのIPアドレスが表示されます。

ローカルVIOMデータのリセットをアクティブ化すると、以下の対策が実装されます。

- サーバブレードのシャットダウンが実行されます。
- SM CLPインターフェースの*ViomManaged*プロパティが削除されます。
- すべてのサーバブレードは「init」オプションで起動されます。これは、データテーブルが空の場合、BIOSが標準I/Oアドレスを設定し、仮想化をリセットするということです。
- 「VIOMで管理」エントリがWeb UIから削除されました。

「リセット」ボタンを使用してリセットを開始した場合、リセットの結果に関する情報がWeb UIに表示されます。この情報を「再起動確認」ボタンを使用して確認する必要があります。この確認を行うと、「リセット状況」フィールドに進行状況が通知されます。

GUIのこのページは、VIOM Managerがサーバの制御を最低1回引き継いだ場合にのみ表示されます。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

アイコン概要 (BX900/400)

	状態	すべてのコンポーネントは正常に動作しています。
	状態	デバイスがインストールされていません。
	ステータス/イベントの重要度	1つ以上のコンポーネントで「警告」または「PDAエラー」というタイプのエラーが発生しています。 イベントの重要度：軽度
	ステータス/イベントの重要度	1つ以上のコンポーネントで「重大なエラー」というタイプのエラーが発生しています。 イベントの重要度：危険
	イベントの重要度	重度。
	イベントの重要度	情報。
	CSS LED	システムで「警告」または「PDAエラー」というタイプのエラーが発生しています。
	CSS LED	オレンジ色のアイコンが点滅している場合、「警告」または「PDAエラー」というタイプのエラーは発生していませんが、「重大なエラー」というタイプのエラーが発生しています。
	エラーLED	システムで「警告」または「PDAエラー」というタイプのエラーが発生しています。
	エラーLED	赤色のアイコンが点滅している場合、「警告」または「PDAエラー」というタイプのエラーは発生していませんが、「重大なエラー」というタイプのエラーが発生しています。
	電源状態	システムユニットの電源状態：オン。
	電源状態	システムユニットの電源状態：オフ。
	CSS警告	1つ以上のコンポーネントが警告状態にあり、交換が必要です。
	CSS危険	1つ以上のコンポーネントが危険な状態にあり、交換が必要です。
	設置場所LED	MMBのID LEDが点灯しています。
	設置場所LED	MMBのID LEDが消灯しています。
	MMBの動作モード	マスターMMB。
	MMBの動作モード	スレーブMMB。

ード



ドアのステータス

フロアスタンドシステムでドアが開いています。



ドアのステータス

フロアスタンドシステムでドアが閉じています。



MMB USBステータス

MMB USBポートに接続されたUSBデバイス（高度なユーザインターフェース）。



MMB USBステータス

MMB USBポートに接続されたUSBデバイス（標準ユーザインターフェース）。



ストレージの関連付け

サーバブレードとストレージブレード間の関連付け。



サーバブレードの表示

USB/DVDが割り当てられています。



サーバブレードの表示

アイコンが点滅している場合、USB/DVDが割り当てられ、使用されていることを示しています。



サーバブレードの表示

USB/DVDが割り当てられていません。



サーバブレードの表示

コンソールがアクティブです。



サーバブレードの表示

アクティブなコンソールがありません。



サーバブレードの表示

サーバブレードをオン/オフするボタン。



電源バー

電源オフ。



電源バー

電源オン。



電源バー

PSUがコードレス/電源オフです。



消費電力モード

アクティブ化されました。アクティブ化を処理中です。



消費電力モード

アクティブではありません。



ヘルプの参照

詳細は、ヘルプテキストの中の の印が付いている説明を参照してください。

訳語/用語集

A | **B** | **C** | **D** | **E** | **F** | **G** | **H** | **I** | **K** | **L** | **M** | **N** | **O** | **P** | **Q** | **R** | **S** | **T** | **U** | **V** | **W** | **X**

このページでは、PRIMERGY BXシステムのコンテキストで使用される略語の展開と説明を示します。

A

AD	Active Directory (Microsoft)
AC	Alternating Current
ACPI	Advanced Configuration Power Interface
AES	Advanced Encryption Standard
ARP	Address Resolution Protocol
ASCII	American Standard Code for Information Interchange
ASR	Automatic System Recovery
ATA	Advanced Technology Attachment
AuDi-MIP	Automatic Distribution of Management IP Addresses

B

BBS	BIOS Boot Specification
BIOS	Basic Input Output System
BSSO	Blade Server Single Sign-On
BTU/h	British Thermal Unit per hour

C

CA	Certification Authority
CB	Connection Blade
CD-ROM	Compact Disk-Read Only Memory
CLI	Command Line Interface
CLP	Command Line Protocol
CMOS	Complementary Metal Oxide Semiconductor
CN, cn	

	Common Name (比較項目: <i>DN</i>)
CNA	Converged Network Adapter (Emulex)
CPU	Central Processor Unit
CRAM-MD5	Challenge-Response Authentication Mechanism, Message Digest 5
CTS	Clear to Send
CSR	Certificate Signing Request
CSS	Customer Self Service

D ↑

dB	Decibel
DC	Direct Current
DC, dc	Domain Component (比較項目: <i>DN</i>)
DDR	Double Data Rate
DHCP	Dynamic Host Configuration Protocol
DIMM	Dual-in-Line Memory Module
DIP	Dual In-Line Package
DMTF	Distributed Management Task Force
DN	Distinguished Name (LDAP) <i>DN</i> は、ディレクトリサービスのディレクトリスキーマのエントリを一意に識別する名前です。 <i>DN</i> は、 <i>CN</i> (共通名)、 <i>OU</i> (部署名)、 <i>DC</i> (ドメインコンポーネント) など、一連の <i>RDN</i> (関係識別名) で構成されています。
DNS	Domain Name Server
DOS	Disk Operating System
DST	Daylight Saving Time
DVD	Digital Versatile Disk

E ↑

EHM	End Host Mode
-----	---------------

EDR

Enhanced Data Rate (25.78125 Gbit/s)

EPOW

Early Power Off Warning

EUI

Extended Unique Identifier

F **FC**

Fibre Channel

FCoE

Fibre Channel over Ethernet

FDR

Fourteen Data Rate (14.0625 Gbit/s)

FRU

Field Replaceable Unit

FSB

Front Side Bus

FSIOM

Front-Side I/O Module (BX400)

FTS

Fujitsu Technology Solutions

G **GbE**

Gigabit Ethernet

Gbps, Gb/s

Gigabit per second

GMT

Greenwich Mean Time

GUI

Graphical User Interface

GUID

Globally Unique Identifier

H **HBA**

Host Bus Adapter

HDD

Hard Disk Drive

HDR

High Data Rate

HE

High Efficiency

HTTP

Hypertext Transfer Protocol

HTTPS

Hypertext Transfer Protocol Secure

I ↑

I2C	Inter-Integrated Circuit ("i-squared cee")
IANA	Internet Assigned Numbers Authority
IB	InfiniBand
IBP	Intelligent Blade Panel
ICE	Import Convert Export
ICMP	Internet Control Message Protocol
ICX	Internet Content Accelerator
ID	Identifier
IDE	Integrated Device Electronics
IF	Interface
I/O	Input / Output
IP	Internet Protocol
IPMB	Intelligent Platform Management Bus
IPMI	Intelligent Platform Management Interface
IQN	iSCSI Qualified Name CNA オンボードアダプタまたはCNA メザニンカードのポートのiSCSI物理機能のイニシエータ文字列。
iRMC	Integrated Remote Management Controller
iSCSI	Internet Small Computer System Interface <i>iSCSI</i> は、データストレージ装置を接続するためのインターネットプロトコル(IP) ベースのストレージネットワーク規格です。
IT	Information Technology
ITS	IT Service 前社名Siemens Nixdorf Informationssysteme/Fujitsu Siemens Computers の部門名。

K ↑

KME	Keyboard Mouse Emulator
-----	-------------------------

KVM

Keyboard, Video, Mouse

L ↑

L2

Layer 2 (Data Link Layer)

LAN

Local Area Network

LCD

Liquid Crystal Display

LDAP

Lightweight Directory Access Protocol

LDAPは分散ディレクトリ情報サービスへのアクセスおよび維持のためのアプリケーションプロトコルです。ディレクトリサービスはレコードの編成されたセットを提供し、多くの場合は階層構造になっています。関連項目: DN.

LDIF

Lightweight Directory Interchange Format

LED

Light Emitting Diode

LOM

LAN On Motherboard

LSB

Local Service Display for Blades

M ↑

MAC

Media Access Control

MB

Megabyte

MD5

Message Digest 5 (暗号化アルゴリズム)

Mbps, Mb/s

Megabit per second

MHz

Megahertz

MMB

Management Blade

MUX

Multiplexer

N ↑

N/A

Not Applicable または Not Available

NDR

Next Data Rate

NDS

Novell Directory Services

NIC	Network Interface Card
NMI	Non-Maskable Interrupt
NTP	Network Time Protocol
NVRAM	Non-Volatile Random Access Memory

O ↑

OCP	OverCurrent Protection
OEM	Original Equipment Manufacturer
OOB	Out Of Band
OPROM	Option ROM ブート可能な周辺デバイスを制御するアダプタカードのファームウェア。
OS	Operating System
OU, ou	Organizational Unit (比較項目: <i>DN</i>)
OVP	OverVoltage Protection

P ↑

PC	Personal Computer
PCI	Peripheral Component Interconnect
PDA	Prefailure Detection and Analysis
PF	Physical Function CNAオンボードアダプタ (PCIカード) の物理カードへのインターフェース。
PF ID	Port Function Identifier CNAオンボードアダプタ/CNAメザニンカードの、ポートの物理機能ID。
PIN	Personal Identity Number
Port GUID	IBメザニンカードのポートGUID。
Port ID	オンボードアダプタ/メザニンカードのポート番号。
POST	Power-on Self Test
PROM	

	Programmable Read Only Memory
PSU	Power Supply Unit
PWOK	Power OK
PXE	Preboot eXecution Environment
PY	PRIMERGY

Q ↑

QPI	QuickPath Interconnect
QDR	Quad Data Rate

R ↑

RAID	Redundant Array of Independent/Inexpensive Disks
RAM	Random Access Memory
RC4	Rivest Cipher 4 (暗号化アルゴリズム)
RDN	Relative Distinguished Name (比較項目: <i>DN</i>)
REMCS	Remote Customer Support System
RFC	Request for Comments
RH5	Red Hat Enterprise Linux 5
RHEL	Red Hat Enterprise Linux
r/o	read only
ROM	Read Only Memory
RPM	Rotations / Revolutions Per Minute
RSA	Rivest, Shamir, Adleman (暗号化アルゴリズム)
RTC	Real Time Clock
RTS	Request to Send
RX	Receiver Cross
RX/TX	

Receive/Transmit

S ↑

SAP	Service Access Point
SAS	Serial Attached SCSI
SCDR	SCI Data Register
SCI	Serial Communications Interface
SCCR1/2	Serial Communications Control Register 1/2
SCSI	Small Computer System Interface コンピュータと周辺デバイス間でデータを物理的に接続および転送するための規格。
SCSR	Serial Communications Status Register
SDR	Single Data Rate
SDR	Sensor Data Records
SDRAM	Synchronous Dynamic Random Access Memory
SEL	System Event Log
SHA	Secure Hash Algorithm (暗号化アルゴリズム)
SM CLP	Server Management Command Line Protocol
SMASH	Systems Management Architecture for Server Hardware
SMTP	Simple Mail Transfer Protocol
SNMP	Simple Network Management Protocol
SSH	Secure Shell
SSL	Secure Socket Layer
SV	ServerView
SVIM	ServerView Installation Manager
SVS	ServerView Suite

T ↑

TCP/IP	Transmission Control Protocol/Internet Protocol
TDR	Transmit Data Register
TDRE	Transmit Data Register Empty
TFTP	Trivial File Transfer Protocol
TLS	Transport Layer Security
TPM	Trusted Platform Module
TX	Transmitter Cross

U ↑

UART	Universal Asynchronous Receiver Transmitter
UI	User Interface
UID	Unit Identification Light
UPS	Uninterruptible Power Supply 入力電源が停止した場合に即座に保護機能を実行するデバイス。
URL	Uniform Resource Locator
USB	Universal Serial Bus
USM	User-based Security Model
USV	Unterbrechungsfreie Stromversorgung (= Uninterruptible Power Supply (UPS))
UUID	Universally Unique Identifier
UVP	UnderVoltage Protection

V ↑

VA	Volt-Ampere
VAC	Volts Alternating Current
VDX	Virtual Network BIOS Driver
VIOM	Virtual I/O Manager
VLAN	Virtual Local Area Network

VRAM

Video Random Access Memory

W ↑

WS-Man

Web Services Management

WWN

World Wide Name

特定のファイバチャネル、ATA またはSAS デバイスを識別する、一意のID。

WWNN

World Wide Node Name

WWNNは、ファイバチャネルファブリック内のノード（エンドポイント、デバイス）に割り当てられたワールドワイド名です。

WWPN

World Wide Port Name

WWPNは、ファイバチャネルファブリック内のポートに割り当てられたワールドワイド名です。

X ↑

XML

Extensible Markup Language

XON/XOFF

Transmitter On/Transmitter Off

トランスマッタをオンまたはオフに切り換える信号。

ダッシュボード

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

ダッシュボードページでは、

- 全体のステータスと
- 最も重要な日常的な運用が表示されます。

右上の「エクスペリエンス」ドロップダウンリストを使用して、ダッシュボードサイト（標準）をWeb UI設定サイト（詳細）とを切り替えられます。

ダッシュボードは4つの作業領域に分割されています。

システムユニット フロントビュー/リアビュー 電力 イベントログ

システムユニット

特に、システムユニットの状態と電源状態の情報を示します。

フロントビュー/リアビュー

- **フロントビュー**
特に、状態についての情報を示し、フロントサイドのシステムユニットコンポーネントの概要図を表示します。
 - サーバブレード
 - ストレージブレード
 - フロントサイドI/Oモジュール
- **リアビュー**
特に、状態についての情報を示し、リアサイドのシステムユニットコンポーネントの概要図を表示します。
 - MMB
 - コネクションブレード
 - リアファンユニット
 - PSU

電力

システムユニットの状態と電源状態についての情報を示します。

右側に、消費電力モードに現在のモードが緑の四角形でマークされて表示されます。「設定」ボタンをクリックすると、ユーザーには詳細Web UIの「電源管理」/「設定」ページが表示され、ここで消費電力モードを変更できます。ここでは、それぞれのモードが説明されています。

イベントログ

MMBとサーバブレードからの最新の10件のイベントログエントリが入力されたテーブルを示します。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- **システムユニット領域**
 - 「User」の役割では、システムユニットの電源状態を変更することはできません。システムユニットの電源状態を変更するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。
- **フロントビュー領域**
 - 「User」、「OEM」、「Operator」の役割では、選択したサーバブレードへのアクセスを制限できます。
 - 次のオプションは、「User」、「OEM」、「Operator」の役割に対して非表示にできます：サーバブレード電源投入/切断、コンソールリダイ

レクション、フロントサイドI/Oモジュールの割り当て-USB/DVD、コンポーネントの位置特定。

- リアビュー領域
 - 「User」、「OEM」、および「Operator」の役割で、特定のコンポーネントにアクセスを制限できます。
 - 「User」の役割は、コンポーネントの位置特定のオプションは組み込まれていません。コンポーネントの位置特定オプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。
- 電源領域
 - 「User」、「OEM」、「Operator」の役割では、選択したサーバブレードへのアクセスを制限できます。
 - 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。
 - 「User」の役割では設定を指定できません。
- イベントログ領域
 - 「User」、「OEM」、および「Operator」の役割で、特定のコンポーネントにアクセスを制限できます。
 - 「User」の役割では、詳細Web UIモードに分岐してすべてのイベントを表示することはできません。

状態の概要

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

「メインフレーム」の「状態の概要」では、すべての設定済みコンポーネントの最新の状態がアイコン (✓⚠️✗) によって示されます。各サブコンポーネントの状態に関する詳細情報を表示するには、該当する主要コンポーネントを展開します。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」、「OEM」、および「Operator」の役割で、特定のコンポーネントにアクセスを制限できます。
- サーバブレードコンソールリダイレクションのオプションは、「User」、「OEM」、「Operator」の役割から取り出せます。
- ファンサイドへは、「User」の役割では分岐できません。

システムユニット

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページには次のブロックがあります。

ブレードシステム情報 ファン管理 全ファン停止 ファンテスト 温度センサーの管理

ブレードシステム情報

- **システム名**
システムユニットの名前。
● <システム名>の長さは14文字以下で、先頭は文字でなければならず、その後に文字、数字、アンダースコア ("_") を続けることができます。
システム名はDNS名の解決にも使用され、DHCPクライアント識別子としても使用されるため、固有である必要があります。
- **設置場所**
システムユニットの設置場所です。
- **連絡先**
連絡先を指定します。
- **アセットタグ**
定義されている場合は、システムユニットのアセットタグを表示します。
- **ラックの名称**
システムユニットのラック名。
● <ラック名>の長さは13文字以下で、先頭は文字でなければならず、その後に文字、数字、アンダースコア ("_") を続けることができます。ラック名は省略することもできます。
- **ラック固有のID**
ラック固有のIDを指定します。
- **インベントリ収集方法の指定**
「自動」に設定されている場合、インベントリ収集は取り付けられているサーバーブレードに対して自動的に、またはシステムユニットに電源が投入されたときに実行されます。「手動」に設定されている場合、自動インベントリ収集は実行されません。
- **マネジメントブレードの不一致を検出**
マネジメントブレードのFWタイプ/バージョンがシステムユニットのハウジングタイプに一致するかどうかを確認できます。一致しない場合は、現在の状況に応じて各種のアクションを開始できます。例えば、役割の自動変更や、スレーブのファームウェアをマスターのファームウェアバージョンでアップデート（クローニング）するなどです。「自動」に設定した場合、取り付けられているマネジメントブレードに対して、またはシステムユニットの電源が投入されたときに、不一致検出が自動的に実行されます。「手動」に設定した場合、自動不一致検出は実行されません。
- **ラック名変更時における全コネクションブレード名の更新**
この機能が有効になっている場合、すべてのコネクションブレードの名前が次の構文に従って更新されます。
● <ラック名>-<システム名>-CB<スロット番号>
この機能の影響を受けるのは"GbEコネクションブレード-x"と"10GbEコネクシ

ヨンブレード-x"のみで、その他の種類のコネクションブレードは影響を受けません。

ファン管理

各ファンが失敗または利用できないとき、ユーザーが応答を設定できるようにします。

全ファン停止

すべてのファンが故障したときのブレードシステムの動作を設定します。

ファンテスト

- **毎日の動作テスト実施時刻**
システムファンのファンテスト時刻を設定します。形式はHH:MM、または「無効」です。
- **起動時のファン動作テスト**
システム電源投入時のファン動作を設定します。チェックを付けると、しばらくの間すべてのファンが全速で回転します。

温度センサーの管理

システムユニットの温度センサーが異常な状態にある場合に取るアクションを、ユーザーが設定できるようにします。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

フロントサイドI/Oモジュール

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページでは、フロントサイドI/Oモジュールの製品情報を示します。

フロントサイドI/Oモジュールをサーバブレードに割り当てられます。対応するリンク「USB/DVD割り当て」をクリックすると、「フロント-サイドI/O管理」ページが開きます。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 表示に関する役割の制限はありません。フロントサイドE/Aマネジメントに分岐すると、定義された権利が適用されます。

マネジメントブレード

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページには次のタブがあります。

[情報](#) [イベントログ](#) [設定](#) [バックアップ / 復元](#)

[↑ 情報](#)

ブレード情報

- 動作モード**
マネジメントブレードはサーバブレードを管理するマスターとして動作するか、待機するスレーブの役割を果たします。
- 状態**
マネジメントブレードの現在の状態を表示します。
- 製造元**
マネジメントブレードの製造情報を表示します。
- 製造年月日**
マネジメントブレードの製造年月日を表示します。
- シリアル番号**
マネジメントブレードのシリアル番号を表示します。
- 製品名**
マネジメントブレードの製品名を表示します。
- ユニット図番**
マネジメントブレードのモデル名を表示します。
- 管理用MACアドレス**
マネジメントブレードの管理LANインターフェースの物理アドレス（MACアドレス）。
- 管理用IPアドレス**
MMBの管理LANインターフェースのIPv4アドレス（マスターのみ）。

IPv4とIPv6が有効な場合

- 管理用IPv4アドレス**
MMBの管理LANインターフェースのIPv4アドレス（マスターのみ）。

- 管理用IPv6アドレス

MMBの管理LANインターフェースのIPv6アドレス（マスターのみ）。

- フームウェア版数
マネジメントブレードの管理ファームウェアの版数を表示します。
- ハードウェア版数
マネジメントブレードのハードウェアの版数を表示します。
- アセットタグ
定義されている場合、マネジメントブレードのアセットタグを表示します。
- サービス用MACアドレス
マネジメントブレードのサービスLANインターフェースの物理アドレス（MACアドレス）。
- サービス用IPアドレス
MMBのサービスLANインターフェースのIPv4アドレス（マスターのみ）。

IPv4とIPv6が有効な場合

- サービス用IPv4アドレス

MMBのサービスLANインターフェースのIPv4アドレス（マスターのみ）

○

- サービス用IPv6アドレス

MMBのサービスLANインターフェースのIPv6アドレス（マスターのみ）

○

電圧情報

- 電圧の状態
マネジメントブレードの電圧の状態を表示します。
- 電圧の最大値
マネジメントブレードの電圧の最大値を表示します。
- 電圧の最小値
マネジメントブレードの電圧の最小値を表示します。
- 電圧の公称値
マネジメントブレードの電圧の公称値を表示します。
- 現在の電圧
マネジメントブレードの現在の電圧を表示します。

↑ イベントログ

すべてのシステムイベントを表示します。また、フィルタ条件を選択して「適用」ボタンをクリックすると、コンポーネントおよび重要度別にフィルタできます。

イベントログフィルタリング

- **重要度**

表示するイベント（全て、情報、重度、軽度、危険）を選択できます。

「ログのクリア」ボタンをクリックすると、イベントログのイベントがすべてクリアされます。

イベントログの内容

- **発生日時**

年-月-日 HH:MM:SS

- **重要度**

情報、重度、軽度、または危険

- **説明**

メッセージ説明。

↑ 設定

- **ブレードアセットタグ**

マネジメントブレードの固有のアセットタグを入力します。

- **マネジメントブレードの再起動**

マネジメントブレードが1台のみシステムに搭載されている場合、「再起動」ボタンが有効になります。

- **マネジメントブレードの動作モード変更**

スレーブのマネジメントブレードが搭載されている場合、「動作モードの変更」ボタンが有効になります。

- **NIC状態によるマネジメントブレードの動作モード変更**

NIC状態検知を有効／無効にします。

- **リンクダウンタイムアウト時間**

NIC状態検知のタイムアウト時間（0～300秒）を設定します。タイムアウト時間が経過すると、マネジメントブレードの動作モード（マスターとスレーブ）が変更されます。

↑ バックアップ / 復元

バックアップ設定

- **バックアップ形式**

バックアップフォーマットを選択します（バイナリまたはXML）。 **(BX400のみ)**

- **バックアップメディア**

ラジオボタンをクリックして、バックアップ先のメディア（メモリ、USB、ローカルファイル）を選択します。

「ローカルファイル」オプションによって、バックアップファイルをローカルPCをダウンロードできます。数秒間の待機時間の後、ローカルPCのWebブ

ラウザにダイアログボックスが開き、その後の手順が指定されます。

重要: この手順を選択した場合、バックアップファイルはMMBによって制御されなくなります。

- **バックアップファイル名**
バックアップするファイル名が表示されます。
- **バックアップの状況**
バックアップの状況を表示します。

復元設定

- **バックアップ形式**
バックアップフォーマットを選択します（バイナリまたはXML）。 (BX400のみ)
- **バックアップメディア**
ラジオボタンをクリックして、リストア元のメディアを選択します。
- **バックアップファイル名**
メモリ/USBメモリからリストアするファイルを選択します。
- **ローカルにあるバックアップファイル名**
ローカルドライブからリストアするファイルを選択します。
- **復元の状況**
リストアの状況を表示します。リストア完了後、マネジメントブレードは自動的に再起動します。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

サーバブレード

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページには次のタブがあります。

[情報](#) [ネットワークインベントリ](#) [イベントログ](#) [電源管理](#) [設定](#) [バックアップ / 復元](#)

↑ [情報](#)

ブレードのハードウェア情報

- **製造元**
サーバブレードの製造元を表示します。
- **製造モデル**
サーバブレードの製品モデル名を表示します。
- **製品名**
サーバブレードの製品名を表示します。
- **製品版数**
サーバブレードの製品版数を表示します。
- **ユニット図番**
製品部品番号を表示します。
- **シリアル番号**
ボードのシリアル番号を表示します。
- **シリアル番号**
製品のシリアル番号を表示します。
- **ファームウェア版数**
サーバブレードに搭載されたiRMCのファームウェアの版数を表示します。
- **ハードウェア版数**
サーバブレードのハードウェアの版数を表示します。
- **製造年月日**
サーバブレードの製造年月日を表示します。
- **アクティブGUID**
アクティブなGUIDを表示します。
- **製造元GUID**
製造元GUIDを表示します。
- **アセットタグ**
定義されている場合、サーバブレードのアセットタグを表示します。
- **メザニンカード**
メザニンカードが搭載されているかどうかを表示します。

オペレーティングシステムの情報

- **OSの種類**
サーバブレードで現在実行されているOSプラットフォームを表示します。
- **OSの版数**
サーバブレードで現在実行されているOSの版数を表示します。
- **BIOSの版数**
サーバブレードのBIOSの版数を表示します。

CPUの情報

CPUの情報（種類、速度、CPUのステッピング、ソケットタイプ）を表示します。

メモリ情報

メモリモジュールの情報と設定を表示します。

ネットワークカードの情報

MACアドレス／WWPN／ポートGUID、IPアドレス／WWNN、NICの種類、BIOS上でNICが有効、Ekeying有効などの情報、および該当コネクションブレードに関する情報を表示します。

↑ ネットワークインベントリ

タイプ3のサーバブレードの場合、別のネットワーク関連情報を示す表が表示されます。見出しで使用される用語の展開/説明は、ここで参照できます。

ヘッダーに関する追加メモ:

- **BIOS有効**
BIOSセットアップユーティリティの設定に応じて、この値は「いいえ」または「はい」に設定されます。
- **Ekeying有効**
ベイ1または2に取り付けられたコネクションブレードのタイプに応じて、この値は「いいえ」または「はい」に設定されます。

↑ イベントログ

イベントログはすべてのシステムイベントを表示します。また、フィルタ条件を選択して「適用」ボタンをクリックすると、コンポーネントおよび重要度別にフィルタできます。

イベントログフィルタリング

- **重要度**
表示するイベント（全て、情報、重度、軽度、危険）を選択できます。

「ログのクリア」ボタンをクリックすると、イベントリポジトリのイベントがすべてクリアされます。

イベントログの内容

- **発生日時**
年-月-日 HH:MM:SS
- **重要度**
情報、重度、軽度、または危険
- **説明**
メッセージ説明。

↑ 電源管理

サーバブレードの電源管理

- **電力管理モード**
選択されたサーバブレードのモードを表示します。次の3つのモードがあります。
 - **最小**
最も効率的な電力消費動作がiRMCによって設定されます。
 - **最適**
iRMCの電力消費動作がパフォーマンスに応じて最適に設定されます。
 - **無効**
iRMCに電力消費動作を設定するオプションがありません。たとえば、サーバブレードが「スタンバイ」状態（システム起動なし）にある場合や、電源管理サポート機能がないOS（DOSなど）がロードされた場合などです。
- **電源状態**
サーバブレードの電源投入およびシャットダウン動作を実行できます。6つのオプションがあります。
 - **電源投入**
サーバブレードの電源を入れます。
 - **シャットダウンおよび電源切断**
OSをシャットダウンし、サーバブレードの電源を切れます。
 - **シャットダウンおよび電源切断・投入**
まずOSをシャットダウンし、次にサーバブレードの電源を切り、一定時間待った後、再度電源を入れます。
 - **ハードリセット**
サーバブレードをリセットします。
 - **NMI**
マスク不可能割り込みを生成します。
 - **強制電源切断**
サーバブレードの電源を切れます（電源ボタンを押すのと同じです）
 -

サーバブレードの電源オプション

- **電源のリストアポリシー**
電源異常後のサーバブレードの動作を設定します。

↑ 設定

自動再起動設定

- **ブートウォッチドッグを有効にする**
ブートウォッチドッグタイマーを有効/無効にします。

- **タイムアウト (1-100)**
重大なエラーの結果、サーバがシャットダウンおよび電源オフの後から再起動するまでに待機する分数（最大100）。
- **リトライ中のアクション**
指定されたアクションは、ブートウォッチドッグタイムアウトが発生したときに実行されます。リトライカウンタが0になって場合は、iRMCによってサーバの電源がオフになります。
- **最大リトライカウンタ (0-7)**
重大なエラーの後にサーバに許可される、再起動の最大試行回数（最大7）。
- **リトライカウンタ (0-最大)**
重大なエラーの後にサーバが試行する、再起動の最大試行回数（最大値は「最大リトライカウンタ (0 - 7)」で設定されます）。

起動方法の設定

PXE起動用のサーバブレードLANポートを選択します。

- **起動方法の設定**
次にシステムが起動したときに使用されるストレージメディア。
- **BIOSリカバリの有効**
BIOSリカバリフラッシュビットの有効化/無効化：
 - **有効**
次にシステムを起動するとき、BIOSは自動的に更新されます。
ファームウェアがアップデートされたときにオペレーティングシステムが起動しない場合、「有効」設定が役立ちます。次にシステムがDOSフロッピー（またはDOSフロッピーイメージ）から起動されたときに、BIOSリカバリフラッシュが自動的に実行されます。
BIOSリカバリフラッシュが正常に実行された後、BIOSリカバリフラッシュビットを「無効」にリセットします。
 - **無効**
次にシステムを起動するとき、BIOSは自動的に更新されません。

ホスト名

ユーザーはここにホスト名を入力できます。これはSNMPにも含まれています。

 ServerViewエージェントがサーバブレードにインストールされている場合、MMBがOSホスト名を引き継ぎます。

ブレードアセットタグ

サーバブレードに固有のアセットタグを入力します。

iRMCアドレス設定

該当するiRMCのアドレス設定を許可します。「サービスセッションのアクティブ化」ボタンを使用すると、現在のiRMCのLANパラメータをバックアップできます。これらのパラメータは、「サービスセッションの非アクティブ化」を使用して復元できます。

- **ファームウェア版数**
ファームウェア版数を表示します。

- *管理URL*
iRMC Webサイトへのリンク。
- *MACアドレス*
MACアドレスを表示します。
- *LANポート*
iRMC LANセレクタの位置を選択します。
- *DNS名*
iRMCのFQDNを表示します。
- *有効にするプロトコル版数*
IPv4アドレスのみ、またはIPv4およびIPv6アドレスを有効にします。
- *IPv4*
 - *DHCPを有効にする*: DHCPを有効/無効にします。
 - *IPアドレス*: IPv4アドレスを設定します。
 - *サブネットマスク*: サブネットマスクを設定します。
 - *ゲートウェイ*: ゲートウェイを設定します。
- *VLANを有効にする*
VLANを有効または無効にします。
- *VLAN ID (2-4094)*
VLAN IDを設定します。
- *IPv6*
 - *リンクローカルIPアドレス*
リンクローカルIPv6アドレスを表示します。
 - *グローバル静的IPアドレス*
静的IPv6アドレスを定義できるようにします。アドレスの形式と省略のルール：
IPv6アドレスは、コロンで区切られた16ビットの16進数の8グループで表現されます（例 2001:0db8:85a3:0000:0000:8a2e:0370:7334）。IPv6アドレスは、16ビット数値の先頭のゼロを省略したり（例 2001:db8:85a3:0:8a2e:370:7334）、ゼロの連続を2つのコロンで置換することができます（例 2001:db8:85a3::8a2e:370:7334）。
 - *グローバルステートレスIPアドレス*
ルータから取得した1つ以上のIPv6アドレスを表示します。

メザニンカード2の動作設定 (**BX900のみ**)

このボックスでは、サーバブレードのスロット2（およびBX960の場合はスロット4も）のメザニンカード（Quad-Port Ethernet）をデフォルト値のベイ7/8からベイ5/6または5/6/7/8に切り換えられます。

このメザニンカードのマルチプレクサ（略してMUX）には4つのポートがあります。デフォルトでは、2つのポート（デュアル）がベイ7に、2つのポートがベイ8に接続されます。これらのポートをペアでベイ5/6に、または単独で5/6/7/8に切り換えられます。

電源管理設定

「強制電源切断」コントロールボックスが有効で、サーバブレードのシャットダウ

ンが失敗した場合、指定可能な時間（1～7分）が経過した後、強制電源切断によってサーバブレードがシャットダウンされます。

スケジュール運転の設定

サーバブレードの電源投入／切断スケジュールを設定できます。

↑ バックアップ / 復元

CMOSバックアップ

サーバブレードのBIOSパラメータのバックアップ。バックアップ／リストアを実行するには、サーバブレードの電源を投入しておく必要があります。バックアップが成功すると、バックアップファイルがCMOSファイル選択一覧に表示されます。

CMOS復元

サーバブレードのパラメータをリストアするためにCMOSファイルとリストアポリシーを選択します。スマートリストアオプションを選択した場合、検証済みのMACアドレス、スロットID、およびBIOSの版数とともにリストアされます。

↑ ロールの配布に基づく権限

ユーザーに割り当てられるロールは、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つのロールに以下の制約が適用されます：

- 「User」、「OEM」、「Operator」の役割では、選択したサーバブレードへのアクセスを制限できます。
- コンソールリダイレクションのオプションは、「User」、「OEM」、「Operator」の役割から取り出せます。
- 設定を指定するオプションは、「User」、「OEM」、「Operator」の役割から取り出せます。

ストレージブレード

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページには次のタブがあります。

情報 設定

↑ 情報

ブレードのハードウェア情報

- 製造元
ストレージブレードの製造元を表示します。

- **製品名**
ストレージブレードの製品名を表示します。
- **製造モデル**
ストレージブレードの製品モデル名を表示します。
- **部品番号**
ストレージブレードの部品番号を表示します。
- **シリアル番号**
ストレージブレードボードのシリアル番号を表示します。
- **シリアル番号**
ストレージブレード製品のシリアル番号を表示します。
- **製品版数**
ストレージブレードの製品の版数を表示します。
- **製造年月日**
ストレージブレードの製造年月日を表示します。
- **ファームウェア版数**
ストレージブレードのファームウェアバージョンを表示します。
注: ストレージブレードに実際にファームウェアがある場合にのみ、表示されます。
- **ハードウェア版数**
ストレージブレードのハードウェアの版数を表示します。
- **アセットタグ**
定義されている場合、ストレージブレードのアセットタグを表示します。
- **CSSコンポーネント**
ストレージブレードがカスタマセルフサービスコンポーネントかどうかを表示します。
- **ディスク数**
ディスク数を表示します（該当する場合）。
- **接続されているサーバブレード**
 - **左側**
左側のサーバブレードに接続されています。
 - **右側**
右側のサーバブレードに接続されています。

↑ 設定

ブレードアセットタグ

ストレージブレードの固有のアセットタグを入力します。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 設定を指定するオプションは、「User」、「OEM」、「Operator」の役割から取り出せます。

GbE (Ethernet) コネクションブレード

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページには次のタブがあります。

[情報](#) [電源管理](#) [設定](#) [バックアップ / 復元](#)

[↑ 情報](#)

ブレード情報

- **製造元**
コネクションブレードの製造元を表示します。
- **製造年月日**
FCスイッチブレードの製造年月日を表示します。
- **シリアル番号**
シリアル番号を表示します。
- **製品名**
製品名を表示します。
- **ユニット図番**
モデル名を表示します。
- **ハードウェア版数**
ボードの版数を表示します。
- **ファームウェア版数**
管理ファームウェアの版数を表示します。
- **ファームウェアモード**
①ファームウェアモードを表示します。ブレードタイプ「10GbEスイッチブレード-x」と「GbEスイッチブレード-x」には、「EHM」、「Switch」または「IBP」を値として指定できます。
- **スタッキングの状態**
製品名が「PY CB Eth Switch/IBP 1Gb 36/8+2」のコネクションブレードの場合のみ。スタッキングステータス（「Master」または「Member」）を表示します。
- **管理ポートMACアドレス**
コネクションブレードの管理ポートのMACアドレスを表示します。
- **アセットタグ**
定義されている場合は、コネクションブレードのアセットタグを表示します。
- **管理URL**
コネクションブレードのWebホームページをリンクするURL。スタッキング

モードのブレードの場合、マスターのURLが表示されます（メンバーについても同様）。

↑ 電源管理

電源管理設定

ユーザーは、電源アクションを選択して「適用」ボタンをクリックした後にブレードをリセットできます。

↑ 設定

「表示の更新」ボタンを使用して、一部のパラメータの現在のステータスが照会されます。パラメータはコネクションブレード自体の管理機能を使っても変更できるため、この照会は必要です。このボタンを押しても変更が表示されなければ、現時点まではコネクションブレードによるパラメータの変更は行われていません。

コネクションブレード名

コネクションブレードのユーザー割り当て名を入力します。

i ユーザー割り当て名は31文字までで、文字で開始し、文字、数字、ハイフン (" - ") を使用できます。ラック名を変更すると（Web UIのメニュー項目「システムユニット」を使用）、ここで指定した名前が上書きされる場合があります（タイプ「GbEコネクションブレード-x」と「10GbEコネクションブレード-x」のみに影響します）。

コネクションブレードは、割り当てられた名前を取得して、以下のシステム設定に使用します（上書きされていない場合）。

1. コネクションブレードの組み込みコマンドラインインタフェースのプロンプト名
2. ポートのネーミング
3. ホスト名
4. DHCPクライアント識別子

ブレードアセットタグ

コネクションブレードの固有のアセットタグを入力します。

管理ポートの設定

スイッチブレードのネットワーク設定情報を表示します。

- **DHCPを有効にする**
コネクションブレードの管理IP設定のIPモード（DHCPまたはNO-DHCP）を設定します。
- **IPアドレス／サブネットマスク／ゲートウェイアドレス**
スイッチブレードの管理IPアドレス／サブネットマスク／ゲートウェイアドレスを表示します。

- **VLANを有効にする**
VLANを有効または無効にします。
- **VLAN ID (2-4094)**
VLAN IDを設定します。 注：VLAN IDを変更した後、DHCPを再度有効にする必要があります。
- **IPv6**
 - リンクローカルIPアドレス
ローカルネットワークのセグメントに対してのみ有効なMMBによって自動生成されたIPアドレスを表示します。
 - グローバルIPアドレス
AutoConfigプロセスで取得されたIPアドレス、またはDHCPv6サーバで割り当てられたIPアドレスを表示します。

スタッキングポートの設定

内部スタッキングポートを有効／無効にします（製品名が"PY CB Eth Switch/IBP 1Gb 36/8+2"のコネクションブレードの場合のみ）。

ダウンリンクポートグループの速度設定 (10GbEコネクションブレードのみ)

- **接続されているサーバベイ**
コネクションブレードに接続されているサーバベイ、および各ベイに設定された転送速度の概要（緑色: 10 Gbps、オレンジ色: 1000 Mbps）を示します。
- **ポートグループとポートグループ速度**
ここで、サーバベイを構成するポートグループに個別の転送速度を、またはすべてのサーバベイに同じ転送速度を設定できます。 すべてのポートグループのデフォルト速度は10 Gbpsです。 注: ポートグループは事前に定義されており、変更できません。

インターフェース設定をデフォルトにリセット

以下に示すインターフェース設定をデフォルト値にリセットします。

- **コネクションブレード名**
<ラック名>-<システム名><シャーシのシリアル番号の末尾6桁>-CB<ベイ番号>。
- **DHCP OOB**
有効
- **内部スタッキングリンク**
無効
- **ポート速度設定 (Fujitsu PY CB Eth Switch/IBP 10Gb 18/8のみ)**
すべてのポートが10 Gb/sに設定されます
- **管理ポートの選択 (Brocade PY CB FCスイッチ8Gb 18/8 26のみ)**
MMBが取り付けられているポートに応じて、「00」または「01」が表示されます。
- **アカウント設定**
MMBには事前設定されたユーザがあり、設定情報を取得および設定します。次のボックスを参照してください。

アカウント設定

● 設定済みのユーザおよびパスワード設定がコネクションブレードのコマンドラインインターフェースまたはWebUIで変更された場合、これらのログイン設定をここでも指定する必要があります。そうしないと、MMBがコネクションブレードにアクセスできなくなります。

- **特権モードのパスワード**
コネクションブレードの特権モードのパスワードを入力します。デフォルト: *en*
- **ログインユーザー名**
コネクションブレードのWebホームページのログインユーザー名を入力します。デフォルト: *admin*
- **ログインパスワード**
コネクションブレードのWebホームページのログインパスワードを入力します。デフォルト: *admin*

↑ バックアップ / 復元

コネクションブレードの設定

- バックアップ/リストア設定
 - ネイティブアクセス方法
「適用」ボタンをクリックすると、ファイルマネージャはコネクションブレードのWebサイトにアクセスできるようになります。ここで、コネクションブレードの現在の設定を保存またはリストアできます。

コネクションブレードのアウトオブバンド設定

- バックアップ設定
 - バックアップメディア
MMBとコネクションブレード間のインターフェースデータのバックアップ先のメディア（メモリ、USB、ローカルファイル）を選択します。
「ローカルファイル」オプションによって、バックアップファイルをローカルPCをダウンロードできます。数秒間の待機時間の後、ローカルPCのWebブラウザにダイアログボックスが開き、その後の手順が指定されます。
重要: この手順を選択した場合、バックアップファイルはMMBによって制御されなくなります。
 - 「メモリ」をバックアップメディアとして使用すると、この方法で保存されたOOB設定は、次にACに障害が発生したとき、マネジメントブレードの再起動、役割変更まで使用できなくなります。
 - バックアップファイル名
「新しい名前」ボタンをクリックすると、バックアップされたデータが含まれているファイルの名前を変更できます。識別タグと現在の日付からなる新しいファイル名が生成されます。

- バックアップの状況

「バックアップ」ボタンをクリックすると、状況が表示されます。バックアップが完了すると、「状況の更新」ボタンをクリックして、デフォルト状況「待機中」に戻れます。

復元設定

- バックアップメディア

MMBとコネクションブレード間のインターフェースデータの復元元のメディア（メモリ、USB、ローカルファイル）を選択します。

- バックアップファイル名

これまでにバックアップしたすべての版数から復元する版数を選択できます。

- ローカルにあるバックアップファイル名

ローカルファイルにバックアップした特定の版数の検索オプションを表示します。

- 復元の状況

「復元」ボタンをクリックすると、復元の状況が表示されます。復元が完了したら、「状況の更新」ボタンをクリックして、デフォルト状況「待機中」に戻れます。

- バックアップファイルの表示

MMBとコネクションブレード間の現在のインターフェースデータを表示します。

。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。

設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

リブートは、「Administrator」の役割でのみ可能です。

イーサネットパススルーコネクションブレード

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページには次のタブがあります。

↑ 情報

ブレード情報

- **製造元**
コネクションブレードの製造元を表示します。
- **製造年月日**
FCスイッチブレードの製造年月日を表示します。
- **シリアル番号**
シリアル番号を表示します。
- **製品名**
製品名を表示します。
- **ユニット番号**
モデル名を表示します。
- **ハードウェア版数**
ボードの版数を表示します。
- **ファームウェア版数**
管理ファームウェアの版数を表示します。

↑ 電源管理

電源管理設定

ユーザーは、電源アクションを選択して「適用」ボタンをクリックした後にブレードをリセットできます。

↑ 設定

ブレードアセットタグ

コネクションブレードの固有のアセットタグを入力します。

ダウンリンクポートグループの速度設定

- **接続されているサーバベイ**
コネクションブレードに接続されているサーバベイ、および各ベイに設定された転送速度の概要（緑色: 10 Gbps、オレンジ色: 1000 Mbps）を示します。
- **ポートグループとポートグループ速度**
ここで、サーバベイを構成するポートグループに個別の転送速度を、またはすべてのサーバベイに同じ転送速度を設定できます。 すべてのポートグループのデフォルト速度は10 Gbpsです。

注: ポートグループは事前に定義されており、変更できません。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」 ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」 および「Operator」 の役割から取り出せます。
- リブートは、「Administrator」 の役割でのみ可能です。

SASコネクションブレード

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページには次のタブがあります。

[情報](#) [電源管理](#) [設定](#)

↑ 情報

ブレード情報

- **製造元**
コネクションブレードの製造元を表示します。
- **製造年月日**
FCスイッチブレードの製造年月日を表示します。
- **シリアル番号**
シリアル番号を表示します。
- **製品名**
製品名を表示します。
- **ユニット図番**
モデル名を表示します。
- **ハードウェア版数**
ボードの版数を表示します。
- **ファームウェア版数**
管理ファームウェアの版数を表示します。
- **ファームウェアモード**
ファームウェアモードを表示します。
- **管理ポートMACアドレス**
コネクションブレードの管理ポートのMACアドレスを表示します。
- **アセットタグ**
定義されている場合は、コネクションブレードのアセットタグを表示します。

- **管理URL**

コネクションブレードのWebホームページをリンクするURL。スタッキングモードのブレードの場合、マスターのURLが表示されます（メンバーについても同様）。

↑ **電源管理**

電源管理設定

ユーザーは、電源アクションを選択して「適用」ボタンをクリックした後にブレードをリセットできます。

↑ **設定**

「表示の更新」ボタンを使用して、一部のパラメータの現在のステータスが照会されます。パラメータはコネクションブレード自体の管理機能を使っても変更できるため、この照会は必要です。このボタンを押しても変更が表示されなければ、現時点まではコネクションブレードによるパラメータの変更は行われていません。

コネクションブレード名

コネクションブレードのユーザー割り当て名を入力します。

● ユーザー割り当て名は31文字までで、文字で開始し、文字、数字、ハイフン ("") を使用できます。ラック名を変更すると（Web UIのメニュー項目「システムユニット」を使用）、ここで指定した名前が上書きされる場合があります（タイプ「GbEコネクションブレード-x」と「10GbEコネクションブレード-x」のみに影響します）。

コネクションブレードは、割り当てられた名前を取得して以下のシステム設定に対して使用します（上書きされなかった場合）。

1. コネクションブレードの組み込みコマンドラインインタフェースのプロンプト名
2. ポートのネーミング
3. ホスト名
4. DHCPクライアント識別子

ブレードアセットタグ

コネクションブレードの固有のアセットタグを入力します。

管理ポートの設定

スイッチブレードのネットワーク設定情報を表示します。

- **DHCPを有効にする**

コネクションブレードの管理IP設定のIPモード（DHCPまたはNO-DHCP）を設定します。

- **IP**アドレス／サブネットマスク／ゲートウェイアドレス
スイッチブレードの管理IPアドレス／サブネットマスク／ゲートウェイアドレスを表示します。
- **VLAN**を有効にする
VLANを有効または無効にします。
- **VLAN ID (2-4094)**
VLAN IDを設定します。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。
- リブートは、「Administrator」の役割でのみ可能です。

FCスイッチブレード

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページには次のタブがあります。

[情報](#) [電源管理](#) [設定](#) [バックアップ / 復元](#)

↑ 情報

ブレード情報

- **製造元**
コネクションブレードの製造元を表示します。
- **製造年月日**
FCスイッチブレードの製造年月日を表示します。
- **シリアル番号**
シリアル番号を表示します。
- **製品名**
製品名を表示します。
- **ユニット番号**
FCスイッチブレードの製品番号を表示します。
- **ハードウェア版数**
ボードの版数を表示します。

- ファームウェア版数
管理ファームウェアの版数を表示します。
- 管理ポートMACアドレス
MACアドレスを表示します。
- WWNアドレス
FCスイッチブレードのWWNアドレスを表示します。
- ファームウェアモード
ファームウェアモードを表示します。「8Gb FCスイッチブレード-x」には「Access Gateway」、「Native」、または「Interop」を値として指定できます。
- アセットタグ
定義されている場合は、コネクションブレードのアセットタグを表示します。
- 管理URL
スイッチブレードのWebホームページにリンクするURLです。

▲ 電源管理

電源管理設定

ユーザーは、電源アクションを選択して「適用」ボタンをクリックした後にブレードをリセットできます。

▲ 設定

「表示の更新」ボタンを使用して、一部のパラメータの現在のステータスが照会されます。パラメータはコネクションブレード自体の管理機能を使っても変更できるため、この照会は必要です。このボタンを押しても変更が表示されなければ、現時点まではコネクションブレードによるパラメータの変更は行われていません。

コネクションブレード名

コネクションブレードのユーザー割り当て名を入力します。

①ユーザー割り当て名の長さは31文字以下でなければならず、文字で開始し、文字、数字、ハイフン ("") を続けることができます。ラック名を変更すると（Web UIのメニュー項目「システムユニット」を使用）、ここで指定した名前が上書きされる場合があります。

コネクションブレードは、割り当てられた名前を取得して、以下のシステム設定を使用します（上書きされていない場合）。

1. コネクションブレードの組み込みコマンドラインインタフェースのプロンプト名
2. ポートのネーミング
3. ホスト名
4. DHCPクライアント識別子

ブレードアセットタグ

コネクションブレードの固有のアセットタグを入力します。

管理ポート選択

管理ポート（スイッチブレードを管理するためのネットワークインターフェース）のポジション（"外部／フロント"と"内部／MMB1またはMMB2"）を切り替えることができます。

管理ポートの設定

スイッチブレードのネットワーク設定情報を表示します。

- **DHCPを有効にする**
コネクションブレードの管理IP設定のIPモード（DHCPまたはNO-DHCP）を設定します。
- **IPアドレス／サブネットマスク／ゲートウェイアドレス**
スイッチブレードの管理IPアドレス／サブネットマスク／ゲートウェイアドレスを表示します。
- **現在値**
IPアドレス／サブネットマスク／ゲートウェイアドレス（「現在の値」）は現在のスイッチブレードの管理IPアドレス／サブネットマスク／ゲートウェイアドレスです。

インターフェース設定をデフォルトにリセット

以下に示すインターフェース設定をデフォルト値にリセットします。

- コネクションブレード名
<ラック名>-<システム名><シャーシのシリアル番号の末尾6桁>-CB<ベイ番号>。
- **DHCP OOB**
有効
- 内部スタッキングリンク
無効
- ポート速度設定 (Fujitsu PY CB Eth Switch/IBP 10Gb 18/8のみ)
すべてのポートが10 Gb/sに設定されます
- 管理ポートの選択 (Brocade PY CB FCスイッチ8Gb 18/8 26のみ)
MMBが取り付けられているポートに応じて、「00」または「01」が表示されます。
- アカウント設定
MMBには事前設定されたユーザがあり、設定情報を取得および設定します。
次のボックスを参照してください。

アカウント設定

 設定済みのユーザおよびパスワード設定がコネクションブレードのコマンドラインインターフェースまたはWebUIで変更された場合、これらのログイン設定をここでも指定する必要があります。そうしないと、MMBがコネクションブレードにアクセスできなくなります。

- **特権モードのパスワード**
コネクションブレードの特権モードのパスワードを入力します。デフォルト: *en*
- **ログインユーザーネーム**
コネクションブレードのWebホームページのログインユーザーネームを入力します。デフォルト: *admin*
- **ログインパスワード**
コネクションブレードのWebホームページのログインパスワードを入力します。デフォルト: *admin*

↑ バックアップ / 復元

バックアップ設定

- **バックアップメディア**
MMBとコネクションブレード間のインターフェースデータのバックアップ先のメディア（メモリ、USB、ローカルファイル）を選択します。
「ローカルファイル」オプションによって、バックアップファイルをローカルPCをダウンロードできます。数秒間の待機時間の後、ローカルPCのWebブラウザにダイアログボックスが開き、その後の手順が指定されます。
重要: この手順を選択した場合、バックアップファイルはMMBによって制御されなくなります。
 「メモリ」をバックアップメディアとして使用すると、この方法で保存されたOOB設定は、次にACに障害が発生したとき、マネジメントブレードの再起動、役割変更まで使用できなくなります。
- **バックアップファイル名**
「新しい名前」ボタンをクリックすると、バックアップされたデータが含まれているファイルの名前を変更できます。識別タグと現在の日付からなる新しいファイル名が生成されます。
- **バックアップの状況**
「バックアップ」ボタンをクリックすると、状況が表示されます。バックアップが完了すると、「状況の更新」ボタンをクリックして、デフォルト状況「待機中」に戻れます。

復元設定

- **バックアップメディア**
MMBとコネクションブレード間のインターフェースデータの復元元のメディア（メモリ、USB、ローカルファイル）を選択します。
- **バックアップファイル名**
これまでにバックアップしたすべての版数から復元する版数を選択できます
 -
- **ローカルにあるバックアップファイル名**
ローカルファイルにバックアップした特定の版数の検索オプションを表示します。

- **復元の状況**
「復元」ボタンをクリックすると、復元の状況が表示されます。復元が完了したら、「状況の更新」ボタンをクリックして、デフォルト状況「待機中」に戻れます。
- **バックアップファイルの表示**
MMBとコネクションブレード間の現在のインターフェースデータを表示します。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。
- リブートは、「Administrator」の役割でのみ可能です。

FCパススルーコネクションブレード

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページには次のタブがあります。

[情報](#) [電源管理](#)

↑ 情報

ブレード情報

- **製造元**
コネクションブレードの製造元を表示します。
- **製造年月日**
FCスイッチブレードの製造年月日を表示します。
- **シリアル番号**
シリアル番号を表示します。
- **製品名**
製品名を表示します。
- **ユニット番号**
モデル名を表示します。
- **ハードウェア版数**
ボードの版数を表示します。

- ファームウェア版数
管理ファームウェアの版数を表示します。

↑ 電源管理

電源管理設定

ユーザーは、電源アクションを選択して「適用」ボタンをクリックした後にブレードをリセットできます。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。
- リブートは、「Administrator」の役割でのみ可能です。

InfiniBandコネクションブレード

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページには次のタブがあります。

[情報](#) [電源管理](#) [設定](#) [バックアップ / 復元](#)

↑ 情報

ブレード情報

- **製造元**
コネクションブレードの製造元を表示します。
- **製造年月日**
FCスイッチブレードの製造年月日を表示します。
- **シリアル番号**
シリアル番号を表示します。
- **製品名**
製品名を表示します。
- **ユニット番号**
モデル名を表示します。

- ハードウェア版数
ボードの版数を表示します。
- フームウェア版数
管理ファームウェアの版数を表示します。
- フームウェアモード
ファームウェアモードを表示します。
- 管理ポートMACアドレス
コネクションブレードの管理ポートのMACアドレスを表示します。
- アセットタグ
定義されている場合は、コネクションブレードのアセットタグを表示します。

▲ 電源管理

電源管理設定 ユーザーは、電源アクションを選択して「適用」ボタンをクリックした後にブレードをリセットできます。

▲ 設定

「表示の更新」ボタンを使用して、一部のパラメータの現在のステータスが照会されます。パラメータはコネクションブレード自体の管理機能を使っても変更できるため、この照会は必要です。このボタンを押しても変更が表示されなければ、現時点まではコネクションブレードによるパラメータの変更は行われていません。

コネクションブレード名

コネクションブレードのユーザー割り当て名を入力します。

i ユーザー割り当て名の長さは31文字以下でなければならず、文字で開始し、文字、数字、ハイフン ("") を続けることができます。ラック名を変更すると（Web UI のメニュー項目「システムユニット」を使用）、ここで指定した名前が上書きされる場合があります。

コネクションブレードは、割り当てられた名前を取得して、以下のシステム設定に使用します（上書きされていない場合）。

1. コネクションブレードの組み込みコマンドラインインターフェースのプロンプト名
2. ポートのネーミング
3. ホスト名
4. DHCPクライアント識別子

ブレードアセットタグ

コネクションブレードの固有のアセットタグを入力します。

管理ポートの設定

スイッチブレードのネットワーク設定情報を表示します。

- **DHCPを有効にする**
コネクションブレードの管理IP設定のIPモード (DHCPまたはNO-DHCP) を設定します。
- **IPアドレス／サブネットマスク／ゲートウェイアドレス**
スイッチブレードの管理IPアドレス／サブネットマスク／ゲートウェイアドレスを表示します。
- **VLANを有効にする**
VLANを有効または無効にします。
- **VLAN ID (2-4094)**
VLAN IDを設定します。

インターフェース設定をデフォルトにリセット

以下に示すインターフェース設定をデフォルト値にリセットします。

- コネクションブレード名
<ラック名>-<システム名><シャーシのシリアル番号の末尾6桁>-CB<ベイ番号>。
- **DHCP OOB**
有効
- 内部スタッキングリンク
無効
- ポート速度設定
すべてのポートが10 Gb/sに設定されます
- アカウント設定
MMBには事前設定されたユーザがあり、設定情報を取得および設定します。
次のボックスを参照してください。

アカウント設定

1 設定済みのユーザおよびパスワード設定がコネクションブレードのコマンドラインインターフェースまたはWebUIで変更された場合、これらのログイン設定をここでも指定する必要があります。そうしないと、MMBがコネクションブレードにアクセスできなくなります。

- **特権モードのパスワード**
コネクションブレードの特権モードのパスワードを入力します。 デフォルト: *en*
- **ログインユーザーネーム**
コネクションブレードのWebホームページのログインユーザーネームを入力します。 デフォルト: *admin*
- **ログインパスワード**
コネクションブレードのWebホームページのログインパスワードを入力します。 デフォルト: *admin*

↑ バックアップ / 復元

コネクションブレードのアウトオブバンド設定

- バックアップ設定
 - バックアップメディア
 - MMBとコネクションブレード間のインターフェースデータのバックアップ先のメディア（メモリ、USB、ローカルファイル）を選択します。
 - 「ローカルファイル」オプションによって、バックアップファイルをローカルPCをダウンロードできます。数秒間の待機時間の後、ローカルPCのWebブラウザにダイアログボックスが開き、その後の手順が指定されます。
 - 重要: この手順を選択した場合、バックアップファイルはMMBによって制御されなくなります。
 -  「メモリ」をバックアップメディアとして使用すると、この方法で保存されたOOB設定は、次にACに障害が発生したとき、マネジメントブレードの再起動、役割変更まで使用できなくなります。
 - バックアップファイル名
 - 「新しい名前」ボタンをクリックすると、バックアップされたデータが含まれているファイルの名前を変更できます。識別タグと現在の日付からなる新しいファイル名が生成されます。
 - バックアップの状況
 - 「バックアップ」ボタンをクリックすると、状況が表示されます。バックアップが完了すると、「状況の更新」ボタンをクリックして、デフォルト状況「待機中」に戻れます。

復元設定

- バックアップメディア
 - MMBとコネクションブレード間のインターフェースデータの復元元のメディア（メモリ、USB、ローカルファイル）を選択します。
- バックアップファイル名
 - これまでにバックアップしたすべての版数から復元する版数を選択できます
 -
- ローカルにあるバックアップファイル名
 - ローカルファイルにバックアップした特定の版数の検索オプションを表示します。
- 復元の状況
 - 「復元」ボタンをクリックすると、復元の状況が表示されます。復元が完了したら、「状況の更新」ボタンをクリックして、デフォルト状況「待機中」に戻れます。
- バックアップファイルの表示
 - MMBとコネクションブレード間の現在のインターフェースデータを表示します
 -

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。
- リブートは、「Administrator」の役割でのみ可能です。

Brocade VDX 2730コネクションブレード

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページには次のタブがあります。

[情報](#) [電源管理](#) [設定](#)

↑ 情報

ブレード情報

- **製造元**
コネクションブレードの製造元を表示します。
- **製造年月日**
FCスイッチブレードの製造年月日を表示します。
- **シリアル番号**
シリアル番号を表示します。
- **製品名**
製品名を表示します。
- **ユニット図番**
製品番号（モデル名）を表示します。
- **ハードウェア版数**
ボードの版数を表示します。
- **アセットタグ**
定義されている場合は、コネクションブレードのアセットタグを表示します
 -

↑ 電源管理

電源管理設定

ユーザーは、電源アクションを選択して「適用」ボタンをクリックした後にブレードをリセットできます。



設定

「表示の更新」ボタンを使用して、一部のパラメータの現在のステータスが照会されます。パラメータはコネクションブレード自体の管理機能を使っても変更できるため、この照会は必要です。このボタンを押しても変更が表示されなければ、現時点まではコネクションブレードによるパラメータの変更は行われていません。

コネクションブレード名

コネクションブレードのユーザー割り当て名を入力します。

ユーザー割り当て名は31文字までで、文字で開始し、文字、数字、ハイフン ("-")を使用できます。

コネクションブレードは、割り当てられた名前を取得して、以下のシステム設定に使用します（上書きされていない場合）。

1. コネクションブレードの組み込みコマンドラインインターフェースのプロンプト名
2. ポートのネーミング
3. ホスト名
4. DHCPクライアント識別子

ブレードアセットタグ

コネクションブレードの固有のアセットタグを入力します。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。
- リブートは、「Administrator」の役割でのみ可能です。

Cisco Nexus B22コネクションブレード

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページには次のタブがあります。

[情報](#) [電源管理](#) [設定](#)

↑ 情報

ブレード情報

- **製造元**
コネクションブレードの製造元を表示します。
- **製造年月日**
FCスイッチブレードの製造年月日を表示します。
- **シリアル番号**
シリアル番号を表示します。
- **製品名**
製品名を表示します。
- **ユニット図番**
モデル名を表示します。
- **ハードウェア版数**
ボードの版数を表示します。
- **アセットタグ**
定義されている場合は、コネクションブレードのアセットタグを表示します。

↑ 電源管理

電源管理設定

ユーザーは、電源アクションを選択して「適用」ボタンをクリックした後にブレードをリセットできます。

↑ 設定

「表示の更新」ボタンを使用して、一部のパラメータの現在のステータスが照会されます。パラメータはコネクションブレード自体の管理機能を使っても変更できるため、この照会は必要です。このボタンを押しても変更が表示されなければ、現時点まではコネクションブレードによるパラメータの変更は行われていません。

ブレードアセットタグ

コネクションブレードの固有のアセットタグを入力します。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

- リブートは、「Administrator」の役割でのみ可能です。

リアファンユニット

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページでは次の情報を示します。

- 製造元**
製造元情報を表示します。
- 製品名**
製品名を表示します。
- ユニット図番**
モデル名を表示します。
- 製品版数**
製品版数を表示します。
- シリアル番号**
シリアル番号を表示します。
- ファームウェア版数**
ファームウェア版数を表示します。
- ハードウェア版数**
ハードウェア版数を表示します。
- 製造年月日**
FCスイッチブレードの製造年月日を表示します。
- CSSコンポーネント**
リアファンユニットがCSSコンポーネントであるかどうかを示します。
- ファンの詳細**
リアファンユニットの情報へのリンクです。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。

電源ユニット

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページには次のタブがあります。

監視 情報

↑ 監視

電源ユニット関連の情報

- **状態**
システムの電源ユニットの状態に関する概要を表示します。
- **電源ユニットの冗長構成**
システムの電源ユニットの冗長状態を表示します。

電源ユニット内部やファンの情報

- **ファン1～ファン8の状態**
選択された電源ユニットのファン1～ファン8の状態を表示します。
- **過電圧防止機能**
過電圧防止機能の状態を表示します。
- **低電圧防止機能**
低電圧防止機能の状態を表示します。
- **過電流防止機能**
過電流防止機能の状態を表示します。
- **現在の共有ステータス**
電源ユニット間での電流の共有状況を表示します。
- **電源ユニットの出力準備状況**
電源ユニットが出力できる状態にあるかどうかを表示します。
- **電源切断命令状況**
電源切断命令状況を表示します。
- **電源の入力定格**
電源ユニットの入力定格を表示します。
- **電源の入力定格**
DC PSU が使用されている場合のみ表示されます。
- **温度**
電源ユニットの現在の温度を表示します。

↑ 情報

電源ユニット

- **製造元**
製造元を表示します。
- **製品名**
製品名を表示します。
- **ユニット図番**
モデル名を表示します。

- **製品版数**
製品版数を表示します。
- **シリアル番号**
シリアル番号を表示します。
- **ファームウェア版数**
ファームウェア版数を表示します。
- **ハードウェア版数**
ハードウェア版数を表示します。
- **製造年月日**
FCスイッチブレードの製造年月日を表示します。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 表示には役割の制限はありません。
- 内蔵ファンのディスプレイへは、「User」の役割では分岐できません。

無停電電源装置 (UPS)

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページでは次の情報を示します。

- **無停電電源装置の数**
取り付けられたUPSの数を指定します。
- **製造元**
UPSのベンダー情報を入力します。
- **種類**
UPSのタイプを入力します。
- **エージェントIPアドレス**
UPSリモート管理のエージェントIPアドレスを設定します。
- **Port**
UPSのポート番号を設定します。
- **SNMPコミュニティ**
UPSのSNMPコミュニティを入力します。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。
- 「User」の役割では設定を指定できません。

搭載コンポーネント概要

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページには、一覧にある各モジュールの基本的なFRU情報が表示されます。

この一覧のモデル名をクリックすると、選択したモジュールのWebページが表示されます。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 「OEM」および「Operator」の役割で、特定のコンポーネントにアクセスを制限できます。

システムイベントログ – システムイベントログ

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページでは次の情報を示します。

- システムイベントログのエクスポート
選択したメディアにイベントログをテキストファイルとして保存します。
- イベントログ表示フィルタ
すべてのシステムイベントを表示します。また、フィルタ条件を選択して「適用」ボタンをクリックすると、コンポーネントおよび重要度別にフィルタできます。

「ログのクリア」ボタンをクリックすると、イベントリポジトリのイベントがすべてクリアされます。

- **イベントログの内容**

イベントは下記のフォーマットで表示されます。

- イベント日付: 年-月-日 HH:MM:SS
- イベントの重要度: 情報、重度、軽度、または危険
- イベントの説明: イベントのメッセージ。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

システムイベントログ – 監査ログ

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページでは次の情報を示します。

- **監査ログのエクスポート**

監査ログのエクスポートと、「システムイベントログ」→「設定」→「監査ログ」で設定されている場合はシステムイベントログのエクスポートも許可します。

- **監査ログ表示フィルタ**

監査ログ表示フィルタの定義を許可します。

- **監査ログコンテンツ**

フィルタの選択内容に応じて監査ログメッセージを表示します。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。

- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

システムイベントログ - 設定

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページには次のタブがあります。

[全般](#) [システムイベントログ](#) [監査ログ](#)

[↑ 全般](#)

- ログがいっぱいになった場合の動作:
 - ラップする
最も古いエントリは上書きできます（デフォルト）。
 - これ以上のエントリはありません
これ以上エントリは追加されません。
- 監査ログを有効にする
監査イベントを個別に保存して表示するか、ログオン/オグオフイベントをシステムイベントログと一緒に保存して表示するかを定義します。
監査ログが有効でなければ、「監査ログ」タブも無効になります。

[↑ システムイベントログ](#)

デフォルトの表示フィルタ

デフォルトのディスプレイフィルタをWeb UIに定義できるようにします。デフォルトディスプレイフィルタのデフォルトは、危険レベルのイベントと重度レベルのイベントを表示し、軽度レベルのイベントおよび情報レベルのイベント、解決方法/原因を表示しません。CSSと非CSSイベントの両方が表示されます。

[↑ 監査ログ](#)

デフォルトの表示フィルタ

デフォルトのディスプレイフィルタをWeb UIに定義できるようにします。監査ログについてのみ、軽度レベルおよび情報レベルの重要度が使用されます。デフォルトは両方です。

通知の構成

監査ログがいっぱいになったときにシステムイベントログに警告を作成する、しきい値を定義できます。

- 構成のエクスポート
監査ログエクスポートの設定を指定できます。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」 ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」 および「Operator」 の役割から取り出せます。

システム情報の保存

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページでは次の情報を示します。

ブレードシステム情報の保存設定

システム情報の保存場所を設定します。「情報の閲覧」 ボタンをクリックすると保存する情報を確認できます。

保存情報

「情報の閲覧」 ボタンをクリックすると、ここに保存情報が表示されます。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」 ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」 および「Operator」 の役割から取り出せます。

不具合発生時の情報の保存

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページでは次の情報を示します。

不具合発生時の情報の保存

システム情報2の保存場所を設定します。「情報の閲覧」 ボタンをクリックすると保存する情報を確認できます。

保存情報

「情報の閲覧」 ボタンをクリックすると、ここに保存情報が表示されます。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 。 「User」 ロールでは、アクセスできません。
- 。 設定を指定するオプションは、「OEM」 および「Operator」 の役割から取り出せます。

LCDパネル – メッセージ

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

Web UIからLCDパネルにメッセージの送信を許可します。メッセージテキストは7行までで、各行26文字までです（空白および改行文字を含む）。行に26文字を超える文字がある場合、これに対するエラーメッセージが発行されます。

「送信」をクリックして、入力メッセージをディスプレイに送信します。

「クリア」ボタンをクリックして、入力テキストをクリアします。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 。 「User」 ロールでは、アクセスできません。
- 。 設定を指定するオプションは、「OEM」 および「Operator」 の役割から取り出せます。

LCDパネル – PIN

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

LCDパネルのPINを有効/無効にし、PINとして4桁の値を定義します。

「0000」（ゼロ4つ）の値を設定しても、PINが無効になります。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」 ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」 および「Operator」 の役割から取り出せます。

フロントサイドI/O管理

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページでは、フロントサイドI/Oモジュールとサーバブレード間の割り当てを示します。

割り当て

サーバブレードとUSB/DVDの間の割り当てと、現在フロントサイドUSB/DVDモジュールに割り当てられているサーバブレードについての情報を表示します。

アクセス設定

フロントサイドUSB/DVDモジュールにアクセスできるサーバブレードについての情報を表示します。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 割り当て
 - すべての役割について、選択したサーバブレードにアクセスを制限できます。
- アクセス設定
 - 「User」 ロールでは、アクセスできません。
 - 設定を指定するオプションは、「OEM」 および「Operator」 の役割から取り出せます。
 - 「OEM」 および「Operator」 の役割で、選択したサーバブレードにアクセスを制限できます。

電源管理

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページには次のタブがあります。

[監視](#) [制御](#) [設定](#) [電源投入/切斷順序](#)

↑ [監視](#)

消費電力の現在値

システムユニットの消費電力値がテーブルに表示され、PSU入出力値が個別に表示されます。

消費電力モニタリング履歴表示オプション

指標「電力監視の単位」をワットからBTU/h、またはこの逆に切り替えられます。消費電力モニタリング履歴を有効または無効にして、消費電力モニタリング履歴の期間を設定できます。この期間は、以下の「入力電力の詳細」ボックスの履歴グラフに表示される時間を定義します。

入力電力の詳細

ここには、システムユニットと各サーバブレードの棒グラフと履歴グラフがそれぞれあります。各コンポーネントの棒グラフは、最小値、平均値、ピーク値、制限値（設定されている場合）、最大値が、数値および線のマークとして棒グラフに表示されます。異なる数値はマークに対応して色分けされます。緑のバーは各コンポーネントの現在の消費電力を示します。

各コンポーネントの履歴グラフは、「+」記号で示された各コンポーネントの名称付きのグレイのバーで隠されます。バーをクリックすると履歴グラフが開きます。グラフ内の線の色は棒グラフの色に対応しています。

↑ [制御](#)

「制御」タブを使用してシステムユニットの電源をオン/オフにし、毎日のオン/オフの時間を設定します。システムユニットの電源がオンの場合にすべてのサーバブレードをオン/オフするオプションもあります。

ブレードシステムの電源状態

「強制電源切断」または「シャットダウンおよび電源切断」を使用してシステムユニットの電源をオフにできます。システムユニットがオフの場合、電源をオンにできます（「電源投入」）。

電源スイッチ

- 強制電源切断機能を有効にする

有効の場合: 「シャットダウンおよび電源切断」が上のボックスで選択され、システムユニットが「電源切断失敗後、強制電源切断が働くまでの待ち時間

」で指定された時間内にシャットダウンしない場合、「強制電源切断」がシステムユニットに対して実行されます。

- 電源切断失敗後、強制電源切断が働くまでの待ち時間 (1~7)
強制電源切断が働くまでの時間を指定します (1~7分)。
- 最後のサーバブレード停止後システムユニットの電源を切断
最後のサーバブレードが停止した後にシステムの電源切断を決定します。

サーバブレードの電源管理

ここで、すべてのサーバブレードを連続してシャットダウンするか（「シャットダウンおよび電源切断」モードで実行）、またはシステムユニットが動作中は連続して起動できます。

- 全サーバブレード電源投入/切断
 - 全サーバブレードの電源投入
すべてのサーバブレードの電源を入れます。
 - 全サーバブレードの電源切断
すべてのサーバブレードの電源を切れます。

スケジュール運転の設定

このボックスで、各日または週全体（「毎日」）について、システムの電源オン/オフの時間を設定します。

注意: ここで設定した時間は1台以上のサーバブレードの対応する時間に優先します。「最適時刻」ボタンを使用してこのような競合を防止できます。これにより、サーバブレードにとって最適な時刻が表示されます。この場合にのみ、「適用」で設定を有効にできます。

「設定」→「リモート通知」（「イベントの設定」タブの「イベントログファイルターリング」の「電力管理」チェックボックス）で電力管理がアクティブになっている場合、アラートメッセージが送信されるまでの時間を前もって「トラップ」入力フィールドで設定できます。

↑ 設定

消費電力の依存関係に対する各種設定を「設定」タブで制御できます。このタブには8つのボックスがあります（**B1**～**B8**）。

電力の供給状況の表示・設定 (B1)

- 消費電力モード
注：消費電力モードはCPUパフォーマンスを管理して、必要な消費電力を達成できるようにします。
次のモードを選択できます：
 - なし
消費電力は制御されていません。デフォルト設定。

- **最小**
消費電力を最小値に設定します。
注：このモードでは、CPUクロック周波数は最低速度に強制され、消費電力は最低になります。
- **低ノイズ**
MMBはサーバブレードの消費電力を制御して、システムユニットのノイズが45dbを超えないようにします。その場合、サーバブレードは最低パフォーマンスで動作するよう強制されます。
- **強制**
消費電力の制限を以下の「強制モード」ボックス（B3、「最大入力電力制限」フィールドの3番目のボックス）、「強制」を「消費電力モード」に設定する必要があります。このモードでは、システムユニットの消費電力が「最大入力電力制限」の値を超過しないように制御されます。その場合、サーバブレードは最低パフォーマンスで動作するよう強制されます。
注：「強制モード」を設定する前に、すべてのサーバブレードとストレージブレードの電源を投入しておく必要があります。そうしないと、このモードを設定するときに電源が投入されていたブレード以外は、ブレードの電源を投入できなくなります。
- **制限**
消費電力の制限を以下の「電力供給制限」ボックス（B7、「電力制限しきい値」フィールド）で設定する場合、「消費電力モード」を「制限」に設定する必要があります。このモードでは、MMBはシステムユニットの消費電力を監視し、一定の値に達したときに情報を通知します。「電源のダイナミックモード」が有効になっている場合、MMBはシステムユニットの消費電力を設定した値以下に維持しようとします。
- **スケジュールモード**
この設定で、システムユニットに対して各曜日（「日曜日」から「土曜日」）について、または1日に2回の切り換え付きで「毎日」について、「消費電力スケジュールの設定」を定義できます（B8）。

- **適応型電力制限を有効にする**
選択可能な2つのポリシーに従って、サーバブレードが使用できる電力の分配を有効または無効にします（「適応型電力制限」、B5）。
- **電源ユニット管理を有効にする**
電源ユニット管理を有効または無効にします。電源ユニット管理が有効ではない場合、以下の電源ユニット設定は無効になります。
- **電源ユニットの数**
システムユニットに搭載されている電源ユニット数を表示します。
- **正常な電源ユニット**
現在アクティブな電源ユニットの数を表示します。
- **電源のダイナミックモード**
PSUのダイナミックモードを有効／無効にします。
● 「電源のダイナミックモード」と「冗長性なし」（以下）が設定されてい

る場合、アクティブな電源ユニットのうち最後のユニットが十分な電力を供給できないとき直ちにシステムの電源が切斷されます。

- 無効
- デフォルト
- 標準

この設定によって、一部の電源ユニットの負荷を高めてその他のユニットを非アクティブにして、電力を節約できます。

- **配線構成を有効にする**

システムユニットが電源の複数の相に接続されている場合、このオプションを有効にする必要があります。「配線構成を有効にする」 (B4) で、どの電源ユニットをどの相に接続するか、情報を入力する必要があります。

- **電源ユニットの冗長構成**

電源ユニットの冗長性が選択されている場合 (「n+1」 または 「n+m」) 、システムユニットの最大出力のデフォルト値が減少しますが、冗長PSUの信頼性とこの出力レベルの可用性が高まります。「1」 台または「m」 台の電源ユニットが故障しても運用に支障がないためです。 BX400システムユニットの最小冗長PSU構成には、2代のPSUが必要です。

使用できる値：「冗長性なし」、「1+1」、「2+1」、「2+2」、「3+1」、「フェーズ冗長性」 (「上の「配線構成を有効にする」が有効になっている場合」) 。

サーバブレード停止順序 (B2)

この設定は、フェイルオーバーや電力制限時など、例外的な状況で停止しているサーバブレードに適用されます。サーバブレードの標準的な電源切断順序を「電源投入/切断順序」タブで設定する必要があります。

- **サーバブレード停止順序**

アクティブなサーバブレードのシャットダウン/電源切断のシーケンスルールを定義します。サーバブレードを右側のリストに移動し、必要とされる順序を割り当てます。

 これはサーバブレードを停止する必要があるあらゆる場合に適用されます (例えは、サーバブレードの電源がオンで、電力が不足している場合) 。

- **サーバブレード停止時の動作**

サーバブレードをシャットダウンするモードです。

 サーバブレードをシャットダウンするには、ServerViewエージェントをインストールして起動しておく必要があります。

強制モード (B3)

この設定は、「消費電力モード」がシステムユニットに対して「強制」に設定されている場合 (B1) に、指定する必要があります。

注: 「強制モード」を設定する前に、すべてのサーバブレードとストレージブレードの電源を投入しておく必要があります。そうしないと、このモードを設定するときに電源が投入されていたブレード以外は、ブレードの電源を投入できなくなります。

◦

- **許容最小入力電力制限の現在値**
「許容最小入力電力制限の現在値」が表示されます（下記を参照）。
- **最大許容入力電力制限**
「最大許容入力電力制限」が表示されます（以下を参照）。
- **最大入力電力制限**
AC入力電源の場合、「最大入力電力制限」を定義して、消費電力をAC電流で許容されるブレーカ未満の値に設定することができます。設定値は、表示される2つの値、「許容最小入力電力制限の現在値」と「最大許容入力電力制限」の間にする必要があります（上記を参照）。

PSU配線構成 (B4)

この設定は、システムユニットの電源ユニットが複数のAC相に接続され、「配線構成を有効にする」（B1）がアクティブな場合に指定する必要があります。

- **電流制限単位**
相に割り当てることができる電力値の単位として、「ボルトアンペア」または「アンペア」を選択できます。
- **電源ユニットと相の接続**
ここでは、電源ユニットと相の割り当てについてシステム電源管理に指定する必要があります。各電源ユニットについて、接続先の相を選択します。
- **電流**
「電流制限単位」設定に従って、各電流に制限値を入力できます。
- **消費電力**
各PSUについて、「入力電流」、「入力電圧」、「入力皮相電力」の3つの値が表示されます。

適応型電力制限 (B5)

「消費電力モード」がシステムユニットに対して「適応型」に設定されている場合は（B1）、この設定を指定する必要があります。

- **再評価期間 (1~60)**
「適応型電力制限」を再評価するポーリング間隔（分単位）を設定します。
- **再評価ポリシー**
 - **消費電力の需要**
サーバブレードに使用できる電力を、過去の消費量に応じて分配します。
 - **サーバブレードの優先度**
サーバブレードに使用できる電力を、優先度に応じて分配します。優先度は「サーバブレード停止順序」（B2）で定義され、最後に電源が切断されたブレードの優先度が最も高くなります。
- **適応型電力制限イベントログを有効にする**
「適応型電力制限」イベントによるイベントログエントリを有効または無効にします。

サーバブレードの消費電力制御 (B6)

各サーバブレードの消費電力値を表示します。また、各サーバブレードを選択して、システムユニットの「消費電力モード」 (B1) と「適応型電力制限」設定 (B5)において、「消費電力モード」を設定できます。

- **消費電力モード**
 - 「適応型電力制限」 (B5) が無効で、システムユニットの「消費電力モード」 (B1) が「なし」、「強制」、または「制限」に設定されている場合、サーバブレードの「消費電力モード」をそれぞれ「最小」または「強制」に設定できます。
 - 「適応型電力制限」 (B5) が無効で、システムユニットの「消費電力モード」 (B1) が「最小」または「低ノイズ」に設定されている場合、サーバブレードの「消費電力モード」は設定できません。
 - 「適応型電力制限」 (B5) が有効で、システムユニットの「消費電力モード」 (B1) が「なし」、「強制」、または「制限」に設定されている場合、サーバブレードの消費電力モードをそれぞれ「最小」、「強制」、「適応型」に設定できます。
 - 「消費電力スケジュールの設定」が設定されている場合 (B8) 、これらの設定はシステムユニットの「消費電力モード」 (B1) を決定し、サーバブレードの「消費電力モード」のオプションに影響します。
- **入力限界値**

システムユニットと該当するサーバブレードの設定に応じて、この制限を設定できます（または設定できません）。値はサーバブレードの「現在の消費電力」より大きく、「ブレード最大」より小さくする必要があります。
- **消費電力表示期間**

サーバブレードの消費電力モニタリング履歴の期間を設定できます。この期間は、「監視」タブの履歴グラフに表示される時間を定義します。平均値とピーク値のみが記録されます。

電力供給制限 (B7)

この設定は「消費電力モード」 (B1) がシステムユニットに対して「制限」に設定されている場合は、指定する必要があります。

- **電力制限しきい値の定義**

相対的または絶対的なしきい値を設定できます。この設定に応じて、隣接する「電力制限しきい値」フィールドにパーセント値（相対的）、またはワットまたはBTU/hの値（絶対的）が表示されます。
- **電力制限しきい値**

電力制限しきい値を指定します。

 現在の値よりも高い値を指定する必要があります。入力した値が低すぎると、すぐ上の許容できる値に自動的に修正されます。
- **警告しきい値 (1-100)**

警告しきい値をパーセントで指定します。
- **ダイナミック電力管理を有効にする**

ダイナミック電力管理を有効または無効にします。

①デフォルトでは無効になっています。このオプションを有効にすると、MMBは「警告しきい値」に達すると即座にサーバブレードのパフォーマンスを低下させて（ACPI機能を使用）、システムユニットの消費電力を制御します。

- **連続許容期間 (1-7200)**
制限ステータスが受理された期間を秒単位で定義します。
- **制限到達後の動作**
定義した制限値に達した後、システムユニットで行うアクションを定義します。

消費電力スケジュールの設定 (B8)

この設定は、「消費電力モード」(B1)がシステムユニットに対して「スケジュールモード」に設定されている場合に、指定する必要があります。各曜日（「日曜日」から「土曜日」）または「毎日」について、1日に2種類の消費電力モードを設定できます。

↑ 電源投入/切断順序

電源投入/切断ポリシー

- **連続スケジュール運転の設定を有効にする**
サーバブレードの遅延電源オン/オフを有効/無効にします。
注：スケジュールするすべてのサーバブレードの電源を投入しておく必要があります。
注：システムにストレージブレードが搭載されている場合、電源投入/切断シーケンスから除外されます。
- **システムユニットの電源投入からサーバブレードの電源投入までの待ち時間 (0-60)**
接続しているサーバブレードの遅延電源オン/オフは、ここで指定した時間（分単位）が経過した後に開始されます。
注：値がN分に設定されている場合、サーバブレードはN+5分後に電源が投入されます（自動インベントリ収集に約5分必要なため）。
- **構成サーバベイ**
ここで、遅延して電源をオン/オフされるサーバブレードを選択できます。
注：サーバブレードの「電源のリストアポリシー」は、「常に電源切断」に設定されます。

電源投入順序

- **サーバブレード電源投入順序**
接続しているサーバブレードを右側のウィンドウに配置して目的の昇順に並べ替えて、順序を設定します。
- **2つのサーバブレード間の遅延 (0-10)**
あるサーバブレードの電源投入から次のサーバブレードの電源投入までの待機時間（分単位）を指定します。

電源切断順序

- **サーバブレード電源切断順序**
接続しているサーバブレードを右側のウィンドウに配置して目的の昇順に並べ替えて、順序を設定します。
これはサーバブレードを停止する必要があるあらゆる場合に適用されます（例えば、サーバブレードの電源がオンで、電力が不足している場合）。
- **サーバブレードの電源切断動作**
「シャットダウンおよび電源切断」と「強制電源切断」を選択できます。
サーバブレードをシャットダウンするには、ServerViewエージェントをインストールして起動しておく必要があります。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。
- 「User」、「OEM」、「Operator」の役割では、選択したサーバブレードへのアクセスを制限できます。

ローカルユーザー

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

適切な権限を持つ管理者はローカルユーザー アカウントを設定できます。

ローカルユーザー アカウント

- **有効**
アカウントの状態（有効または無効）を表示します。
- **名前**
ユーザー名を表示します。Administratorは、ユーザー名ハイパーアリンクをクリックすると、ユーザー アカウントを設定できます。
- **ユーザーの権限**
ユーザーの権限を表示します。
可能な権限は「Administrator」、「OEM」、「Operator」、「User」です。
詳細は、「新しいユーザー」ボタンをクリックして表示される「新しいローカルユーザー アカウント」ページのオンラインヘルプを参照してください。
- **削除**
ユーザー アカウントを削除します。

- 新しいユーザー
新しいユーザー アカウントの設定ページを表示します。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- アクセス権は、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。
- 設定を指定するオプションは、「Administrator」の役割から取り出せます（標準ユーザー「admin」の場合を除く）。

新しいユーザー

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページでは、新しいローカルユーザーを追加して設定できます。このページには次のセクションがあります。

[オプション](#) [役割/権限](#)

[↑ オプション](#)

新しいローカルユーザー アカウント

- 有効
アカウントの状態（有効／無効）を設定します。
注意: 無効になっている場合、新規ユーザーはサインインできません。
- 名前
ユーザー名を入力します。
- パスワード
パスワードを入力します。
- パスワード(再入力)
パスワードを再入力します。
- ユーザーの権限（以下の表を参照）
 - Administrator*
ユーザーはシステムにアクセスするすべての権限を持っています。
 - OEM*
ユーザーはシステムにアクセスするための全権限を持っていますが、ユーザー アカウントの設定または変更はできません。すべてのサーバ ベイへのアクセス権は制限できません。

- *Operator*

ユーザーはシステムにアクセスするための全権限を持っていますが、ユーザー アカウントの設定または変更はできません。すべてのサーバ ベイへのアクセス権は制限できます。

- *User*

ユーザーは読み取り権限のみを持っています。

- サインイン時のダッシュボード (BX400のみ)

サインインを標準ユーザーインターフェースで開始するか詳細Web UIで開始するかを設定します。

- 使用シェル (Textアクセス) (BX900のみ)

ユーザーにリモートマネージャ (CLI) またはサーバマネジメントCLPへのアクセスを許可します。

- マネジメントブレードに対する権限の設定

- システムアカウントの設定

Administrator権限を持つユーザーのみシステムアカウントを設定できます。

- ブレードシステム設定

この特別な権限があれば、Webインターフェースまたはテキストベースのインターフェースを介してシステム設定を変更できます。

- サーバブレードに対する権限の設定

- ユーザーアカウント設定

ユーザーがアクセスを許可されているサーバブレード上で、iRMCユーザー管理を実行する権利を有効または無効にします。MMB Web UIから開始されたリモート管理に適用されます。

- ブレードシステム設定

ユーザーがアクセスを許可されているサーバブレードを、a)サーバブレードタブを使用してMMBから、またはb)MMB Web UIから開始されたサーバブレードのリモート管理内から、管理する権利を有効または無効にします。

- ビデオリダイレクション機能を有効にする

ユーザーがアクセスを許可されているサーバブレードでiRMCエースのグラフィカルリモートコンソールを使用する権利を有効または無効にします。理も - t - コンソールをMMB Web UIから直接開始するとき、およびリモートコンソールをMMB Web UIから開始したリモート管理内から呼び出すときに適用されます。

- リモートストレージ機能を有効にする

この特別な権限があれば、サーバブレードのiRMCを介して利用できるストレージメディアにアクセスできます。これにより、サーバブレードのOSにI/O機能 (たとえば、OSパッチをインストールするための機能) を追加できます。

- コネクションブレード設定

コネクションブレードの「設定」タブに収集されたすべての設定を指定する権限を有効／無効にします。

- ユーザー アクティビティ の ログ を 有効 に する
ユーザー アクティビティ の 記録 を 有効 / 無効 に し ます。
「有効」 : CLP 、 Web UI 、 SSH 、 または Telnet インターフェース
経由で ログイン または ログアウト する とき 、 すべて の イベント
が システム イベント ログ に 表示 さ れ ます。 「無効」 の 場合 は 、
これら の メッセージ は 抑制 さ れ ます。
注 : VIOM Manager を 使用 し て いる 場合 、 「有効」 オプション を
使用 し ない こ と を 推奨 し ます。 VIOM が 複数 の ログイン を 実行 す
る た め 、 システム イベント ログ が オーバーロード し てしま う た
め です。
- アクセス する ブレード の 設定
ベイ へ の アクセス は 、 マネジメント ブレード 、 サーバ ブレード
、 コネクション ブレード に 付与 / 制限 でき ます。 これ に より 、 シ
ス テム ユニット 内 で ユーザー に 表示 さ れる トッ プ レベル の コン
ポーネント が 指定 さ れ ます。

↑ 役割/権限

ロール/ユーザーの権限	MMBの権限		iRMCの権限				ブレードの権限			
	システムアカウントの設定	ブレードアカウントの設定	ユーザーアカウントの設定	ブレードシステム設定	ビデオリダイレクション機能を有効にする	リモートストレージ機能を有効にする	コネクションブレードの設定	サーバブレー道へのアクセス	コネクションブレードにアクセスする	マネジメントブレードへのアクセス
Administrator	はい	はい r/o	はい r/o	はい r/o	はい r/o	はい r/o	はい r/o	はい r/o	すべて r/o	すべて r/o
OEM	いいえ r/o	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	すべて r/o	全て(-)
Operator	いいえ r/o	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	全て(-)	はい
User	いいえ r/o	いいえ r/o	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ r/o	なし	なし	いいえ

注意: ユーザーが作成されたとき、表には各役割の「デフォルト値」が表示されます。つまり、「r/o」というフラグ付きの例外を除いて、値は個別に修正できるということです。

以下の表は、上記の表のインデックス付きの列見出しと、該当するメニュー項目およびWeb UIでの個々のページとの割り当てを示します。

影響を受けるWeb UIコンポーネントの権限（役割）の詳細は、関連するヘルプページの末尾にあります。

インデックス#	影響されるWeb UIコンポーネント
1	操作/ユーザー管理/*。
2	コンポーネント/システムユニット、 情報/<システムイベントログ、システム情報の保存、不具合発生時の情報の保存>、 操作/LCDパネル、操作/電源管理、 操作/インストール管理/インストールベースの変更、操作/バックアップ/復元管理、
3	操作/アセットタグ管理、操作/ファームウェアアップデート、操作/証明書の操作、 設定/システムユニット/*、設定/言語、設定/基本設定ウィザード、 MMB-*、VIOM再起動； ダッシュボード: システムユニット領域、フロントビュー/リアビュー、電源領域。
4	操作/インストール管理/OSのインストール、サーバブレード-*、サーバブレード-*/*/識別灯、 ストレージブレード-*/*/設定、ストレージブレード-*/*/識別灯； ダッシュボード: フロントビュー/<割り当て、電力、識別灯ボタン>。
5	コンポーネント/ブレードシステム: ブレードシステム-: 状態の概要/サーバブレードの状態/列の開始ボタン「ビデオリダイレクション」、サーバブレード-*/*/ボタン「ビデオリダイレクション」； ダッシュボード: フロントビュー/コンソールボタン。
6	詳細は、この機能に関連するiRMCページを参照してください。
7	コンポーネント/スイッチブレード-*の「電源管理」、「設定」、「バックアップ/復元」タブ。
8	表示先: フロントビュー、ダッシュボードフロントビュー領域、コンポーネント/サーバブレードのツリー、コンポーネント/ストレージブレードのツリー、「ブレードシステム-: 状態の概要」ページのサーバブレードの状態の表およびストレージブレードの状態の表、 情報/搭載コンポーネント概要、 操作/フロントサイドI/O管理/割り当て、操作/フロントサイドI/O管理/アクセス設定、 操作/インストール管理/OSインストール、

	操作/電源管理/設定/サーバブレードの消費電力制御 (BX400のみ) 、 操作/アセットタグ管理、 ダッシュボード/イベントログ領域。 (-) 注: 1つのサーバブレードにアクセスを制限できます。
9	表示先: リアビュー、ダッシュボーデリアビュー領域、コンポーネント/コネクションブレードのツリー、「ブレードシステム -: 状態の概要」ページの「スイッチブレードの状態」表、 情報/搭載コンポーネント概要、 情報/アセットタグ管理、 ダッシュボード/イベントログ領域。 (-) 注: 1つのサーバブレードにアクセスを制限できます。
10	表示先: リアビュー、ダッシュボーデリアビュー領域、コンポーネント/マネジメントブレードのツリー、「ブレードシステム -: 状態の概要」ページの「マネジメントブレードの状態」表、 情報/搭載コンポーネント概要、 情報/アセットタグ管理、 ダッシュボード/イベントログ領域。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- アクセス権は、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。
- 設定を指定するオプションは、「Administrator」の役割から取り出せます（標準ユーザー「admin」の場合を除く）。

グローバルユーザー

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

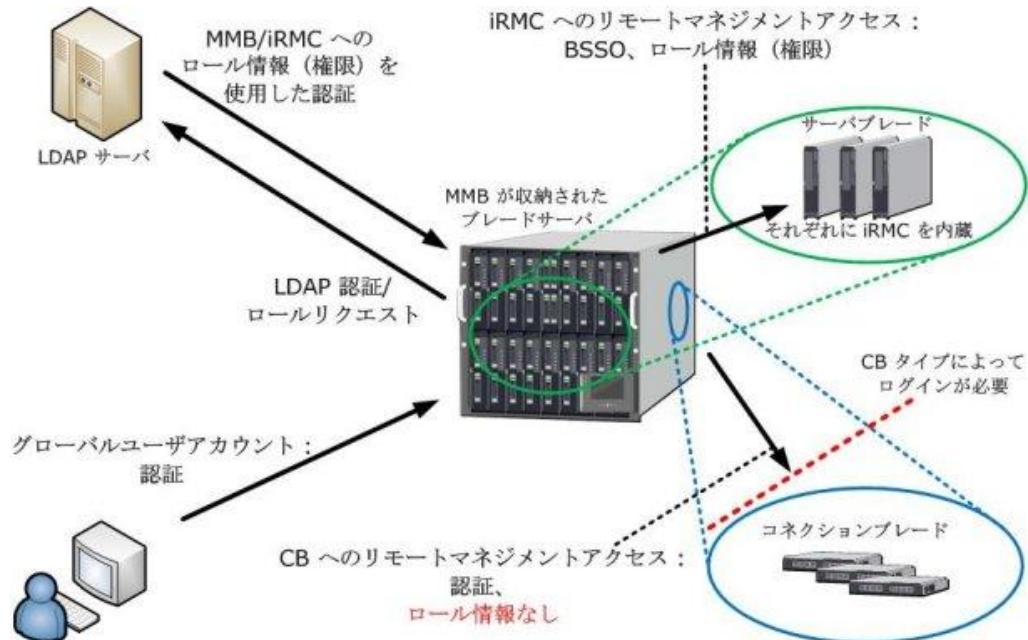
このページでは、MMBがLDAPサーバへの要求を処理する方法を設定できます。このページには次のセクションがあります。

[はじめに](#) [オプション](#)

[↑ はじめに: LDAPの概念](#)

認証が成功すると、MMBはユーザーの役割情報を評価して、ユーザーに対してMMBでの関連するアクションの実行を許可します。このよう

なアクションの1つのサーバブレードアクセス (BSSO) では、サーバブレード上の認証情報が要求されます。このために、MMBはユーザーが「Department」のメンバーであるかどうかを確認します。これは該当するサーバブレード (iRMC) 上のLDAP設定で参照されます。この場合、BSSOの処理中に役割情報が読み込まれ、iRMCに転送されて今後の認証に使用されます。全体の構造を、以下の図に示します。



注意:

- ユーザーは、さまざまなサーバブレード/iRMCとは異なる役割/許可をMMB上で保有できます (MMBでは役割XでiRMC₃では役割YとZ、またはMMBでは役割Y、サーバブレードbでは役割XでiRMC₂では役割X、Y、Zなど)。
- グローバルユーザーはローカルユーザーに1:1でマッピングすることはできず、その逆もできません。権限の概要を、対応するローカルユーザーの表と比較してください。
- LDAP役割規則はコネクションブレードには使用できません。コネクションブレードにMMBからアクセスするとき、コネクションブレードで既知のユーザー アカウントを使用して、再度認証する必要があります。ここでは以下の点を考慮してください:
 - サーバブレードの場合にMMBが指定する認証情報はコネクションブレードには存在しない。
 - またはBSSOサポートがない場合。

グローバルユーザー権限										
動作モード (FTS Deployment Tool v2の定義に従 う)	MMBの権 限		iRMCの権限				ブレードの権限			
	シス テム アカ ウン トの 設定 1	ブレ ード シス テム 設定 2	ユ ー ザ ー ア カ ウ ン ト の 設 定 3	ブレ ード シス テム 設 定 4	ビ デ オ リ ダ イ レ ク シ ヨ ン 機 能 を 有 効 に す る 5	リ モ ー ト ス ト レ ジ 機 能 を 有 効 に す る 6	コ ネ ク シ ヨ ン ブ レ ー ド の 設 定 7	サ ー バ ブ レ ー ド へ の ア ク セ ス 8	コ ネ ク シ ヨ ン ブ レ ー ド に ア ク セ ス 9	マネ ジメ ント ブレ ード への アク セス 10
Administrator	情報 無し	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
Maintenance	情報 無し	はい	はい	はい	はい	はい	いい え	はい	いいえ	はい
CustomRole	情報 無し	いい え (1)	いい え	いい え	いいえ	いいえ	いい え	いい え(2)	いいえ	いい え
Monitor	情報 無し	いい え (1)	いい え	いい え	いいえ	いいえ	いい え	いい え(2)	いいえ	いい え
Operator	情報 無し	いい え (1)	いい え	いい え	いいえ	いいえ	いい え	いい え(2)	いいえ	いい え

(1) ファンユニットの背面のビュー、PSUのビュー、温度およびフロントサイドI/Oモジュール (BX400) のビューは、「コンポーネント/ブレードシステム」 - 「状態の概要」で許可されます。Web UI言語を切り換えることもできます。

(2) ユーザーがiRMCと同じ部署にいるかどうかによってアクセス権は異なります。アクセスが可能な場合、表示のみに制限されます。

以下の表は、上記の表のインデックス付きの列見出しと、該当するメニュー項目およびWeb UIでの個々のページとの割り当てを示します。

インデックス#	影響されるWeb UIコンポーネント
1	操作/ユーザー管理/*
2	コンポーネント/システムユニット、情報/<システムイベントログ、システム情報の保存、不具合発生時の情報の保存>、操作/LCDパネル、操作/電源管理、操作/インストール管理/インストールベースの変更、操作/バックアップ/復元管理、操作/アセットタグ管理、操作/ファームウェアアップデート、操作/証明書の操作、設定/システムユニット/*、設定/言語、設定/基本設定ウィザード、MMB-*、VIOM再起動；ダッシュボード: システムユニット領域、フロントビュー/リアビュー、電源領域
3	詳細は、この機能に関連するiRMCページを参照してください。
4	操作/インストール管理/OSのインストール、サーバブレード-*/、サーバブレード-*/識別灯、ストレージブレード-*/設定、ストレージブレード-*/識別灯；ダッシュボード: フロントビュー/<割り当て、電力、識別灯ボタン>。
5	コンポーネント/ブレードシステム: ブレードシステム-: 状態の概要/サーバブレードの状態/列の開始ボタン「ビデオリダイレクション」、サーバブレード-*/ボタン「ビデオリダイレクション」；ダッシュボード: フロントビュー/コンソールボタン。
6	詳細は、この機能に関連するiRMCページを参照してください。
7	コンポーネント/スイッチブレード-*/の「電源管理」、「設定」、「バックアップ/復元」タブ。
8	表示先: フロントビュー、ダッシュボードフロントビュー領域、コンポーネント/サーバブレードのツリー、コンポーネント/ストレージブレードのツリー、「ブレードシステム-: 状態の概要」ページのサーバブレードの状態の表およびストレージブレードの状態の表、情報/搭載コンポーネント概要、操作/フロントサイドI/O管理/割り当て、操作/フロントサイドI/O管理/アクセス設定、操作/インストール管理/OSインストール、操作/電源管理/サーバブレードの消費電力制御 (BX400のみ) 、操作/アセットタグ管理、ダッシュボード/イベントログ領域。
9	表示先: リアビュー、ダッシュボードリアビュー領域、コンポーネント/コネクションブレードのツリー、「ブレードシステム-: 状態の概要」ページの「スイッチブレードの状態」表、情報/搭載コンポーネント概要、

	情報/アセットタグ管理、 ダッシュボード/イベントログ領域。
10	表示先: リアビュー、ダッシュボーデリアビュー領域、コンポーネント/マネジメントブレードのツリー、「ブレードシステム-: 状態の概要」ページの「マネジメントブレードの状態」表、 情報/搭載コンポーネント概要、 情報/アセットタグ管理、 ダッシュボード/イベントログ領域。

▲ オプション

グローバルディレクトリサービスの設定

- **LDAPを有効にする**
このオプションは、MMBがディレクトリサービス経由でユーザーを認証および承認できるかどうかを指定します。
- **LDAP SSLを有効にする**
このオプションを有効にすると、MMBとLDAPサーバ間のデータ転送がSSLで暗号化されます。（MMBにアップロードする有効なCA証明書が必要です）
- **ローカルIDでのログイン禁止**
LDAP認証を行わずにMMBへログインするオプションを無効にします。注: LDAPが有効でもLDAPサーバにアクセスできない場合は、MMBにサインインできません。
- **常にSSLログインを使用**
MMB Web UIでのみSSLログインを有効にします。このオプションは、LDAPが有効の場合に自動的に有効にされます。ただし、LDAPが無効の場合は、この設定によってユーザーはHTTPS経由でローカルユーザーとしてサインインを強制されます。
- **ディレクトリサーバの種類**
LDAPサーバのタイプを指定します。
- **IPv4**
 - **LDAPサーバ1:** プライマリLDAPサーバのIPv4アドレスを指定します。
 - **LDAPサーバ2:** セカンダリ（バックアップ）LDAPサーバのIPv4アドレスを指定します。
- **IPv6**
 - **LDAPサーバ1:** プライマリLDAPサーバのIPv6アドレスを指定します。
 - **LDAPサーバ2:** セカンダリ（バックアップ）LDAPサーバのIPv6アドレスを指定します。
- **ドメイン名**
LDAPサーバのDNS名を指定します（testdomain1.localなど）。これはディレクトリサービス全体のルートまたは開始点です。

- **基本ドメイン名**
LDAP表記に従って、コンマ区切りで、DNS名のコンポーネント（識別名）を表示します（*dc=testdomain1, dc=local*など）。
- **検索範囲**
検索プロセスを利用するため、このオプションでは組織単位のコンマ区切りリスト（*ou=testou1, ou=testou2*など）を使用して、SVS構造がベースDNで検出される条件を判定します。必須ではありません。
注: OUを正しい順序で入力する必要があります。最も高いSVS OUを検索の開始点としてください。
- **Department**
特定のユーザーが検出されるSVS構造内の部署の名前。

ディレクトリサービスのアクセス設定 (eDirectoryおよびOpenLDAPのみ)

- **LDAP認証ユーザー名**
MMBがLDAPサーバへのログオンに使用するユーザー名。
- **LDAP認証ユーザーパスワード**
MMBがLDAPサーバー上のユーザーを認証するために使用するパスワード。
- **パスワード(再入力)**
「LDAP認証ユーザーパスワード」で入力したパスワードを再度入力します。

詳細は、『PRIMERGY ServerView Suite. iRMC S2/S3 - integrated Remote Management Controller』の第4章を参照してください。

ユーザーセッション情報

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページには、現在サインインしているすべてのユーザーの概要が示されています。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- アクセス権は、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

ダッシュボードアクセス

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページでは、ダッシュボードのグローバルな使用方法を有効または無効にできます。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- アクセス権は、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。
- 設定を指定するオプションは、「Administrator」の役割から取り出せます（標準ユーザー「admin」の場合を除く）。

OSのインストール

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページではサーバブレードへのオペレーティングシステムの簡単なインストール方法を説明します。OSを選択して、1つまたは複数のサーバブレードにインストールします。このページには次のセクションがあります。

[要件](#) [OSのインストール](#) [その他のオプション](#)

▲ 簡易インストールの要件

- MMB Web UIが装備されているローカル／リモートコンソールがアクティブになっている（このヘルプテキスト参照時に実現されている）。
- OSインストールメディアが、システムユニットのフロント-サイドI/OモジュールのDVDドライブに挿入されている。
- ServerView Installation Manager (SVIM) を格納したブート可能なUSBスティックが、システムユニットのフロントサイドI/OモジュールにあるUSBポートに接続されている必要があります。
 - SVIM USBスティックの作成:
SVIMはServerView Suite (SVS) の一部で、新しいPRIMERGYサーバに付属しています。ユーザーは、SVS

DVD 1のルートフォルダにあるSetup.exeから、ブート可能なUSBスティックを作成できます。詳細は、『ServerView Installation Manager – 取扱説明書』を参照してください。

- USBスティックが作成されるシステムの場合は、OSプラットフォームとして最低でもWindows Vista/Windows 7またはWindows Server 2008が必要です。管理者権限が必要となることに注意してください。
- 容量8 GB以上のブート可能なUSBスティック（2.0）が必要です。作成プロセスで、スティックに格納されたすべてのデータが削除されることに注意してください。
- コピープロセスの時間は、DVDの読み取り速度とUSBスティックの書き込み速度によって異なります。SVS DVD 1をハードディスクにあらかじめコピーしておくと、速度を上げることができます。USB 2.0デバイス（スティックとポート）の使用を推奨します。
- "SVIMtoUSB.bat"ファイルを実行し、USB準備方法として、「デプロイメント」オプションに「2」を入力します。次に、システムで現在使用できるUSBスティックのリストから、デバイス名と容量を使用して準備されるスティックを、関連付けられたUSBデバイスの論理番号を使用して洗濯します。

↑ OSのインストール

「OSのインストール」ページは、主に次のブロックから構成されています。

- インストールターゲット（1つ、複数、またはすべてのサーバブレード）
注：ターゲットサーバブレードのディスク上の既存のデータは、インストール時に削除されます。
- OSの選択（Windows、LinuxまたはVMware OSバージョン）
- OSのインストールオプション（選択したOSの種類によって異なります）

インストールターゲット

- すべてのサーバブレード
選択したOSを使用可能なすべてのサーバブレードにインストールする場合に、このオプションをアクティブにします。

- **ブレードベイの割当図 (ベイ1~8)**
ここに、システムユニットのすべてのブレードベイの割り当てがシンボリックなフロントビューとして表示されます。サーバブレードは黒で表示されます。サーバブレード（フロントサイドI/Oモジュール（DVDおよびUSB）アクセスから厳密には除外されていない）には、それぞれチェックボックスがあります。選択したOSのインストール先サーバブレードをアクティブにするか、いくつかのサーバブレードを非アクティブにします。
注: サーバブレードにOSをインストールするには、MMBローカルユーザー権限「ブレードシステム設定」が必要です。ターゲットサーバブレードの電源は投入しないでください。グローバルユーザーの場合、役割（権限）「Administrator」または「Maintenance」を持つ場合のみ可能です。
- **インストールの進行状況**
インストール中に、個々のサーバブレードのインストールプロセスが、色付きの折れ線グラフでここに表示されます。
 - グレーの線：インストールが進行中です。
 - 緑の線：インストールが正常に完了しました。
 - 赤い線：インストールが失敗しました。

OSの選択

インストールのために表示されるOSの一覧は、「インストールベースの変更」ページ（ナビゲーションツリーの次のノード）を使用してアップデートできます。

- **OSの種類**
選択したサーバブレードにインストールするオペレーティングシステムを選択します。
- **OSバージョン/ディストリビューション**
選択したOSの版数または配布を選択します。
- **OSエディション**
選択したOS版数またはOS配布のエディションを選択します。

OSのインストールオプション

- **Windows**
 - **管理者パスワード**
Windows標準OS管理者「Administrator」のパスワードを設定します。このログイン設定は、選択したサーバブレードにOSと共にインストールされます。1~14文字*を使用します。
 - **パスワード(再入力)**
パスワードを再入力します。
 - **地域と言語のオプション**
インストールするOSのロケール設定を選択します（キーボードレイアウトを含む）。

- **非OEM製品ID** (Fujitsu OEM以外のOSインストールメディアの場合のみ)
インストールするWindows OSの製品ID（ライセンスキー）を入力します。
- **Linux**
 - **ルートパスワード**
Linux標準OS管理者「root」のパスワードを設定します。
このログイン設定は、ユーザー「root」について選択したサーバブレードにOSと共にインストールされます。1~14文字*を使用します。
 - **パスワード(再入力)**
パスワードを再入力します。
 - **RH5のインストール番号 (OS RH5の場合のみ)**
Red Hat Enterprise Linux 5のインストール番号を入力します。

* インストールされているOSの要件に従って安全なパスワードを使用してください。

↑ その他のオプション

- **エラー発生時にインストールを中断する**
サーバブレードへのインストールが失敗した場合にインストールシークエンスの中断を有効／無効にします。デフォルト設定（無効にする）では、現在のインストールが失敗しても、次のサーバブレードへのインストールが開始します。
- **インストールの状態**
ここに、現在のインストールステップに関するメッセージが表示されます。先頭には、現在のサーバブレードのブレードベイ番号が付きます。
- **インストールの進行状況履歴**
すべてのインストールメッセージが一覧表示されます。この一覧はスクロールできます（また、「進行状況のクリア」ボタンで削除できます）。
- 注：メッセージ「インストールが失敗しました」が表示された場合、ログファイルがUSBスティック、フォルダ「LogFile」にコピーされます。ログファイルを参照して、エラーを確認してください。
- **アップデート状況の保存**
インストール（シークエンス）の完了後、このボタンをクリックすると、"インストールの進行状況履歴"をブラウザローカルファイルに保存できます。このファイルのフォルダは選択できますが、デフォルトのファイル名は"Install<タイムスタンプ>.txt"です。

- **アップデート状況のクリア**
このボタンをクリックすると、"インストールの進行状況履歴"、および「インストールの進行状況」バーの上にある可視化のための折れ線グラフが削除されます。
- **適用**
後で使用できるように現在の設定を保存します。後で「OSのインストール」ページが再び表示された時に、これらの設定がアクティブになります。
- **インストールの開始**
インストールを開始します。現在の設定は後で使用するために保存されません。インストール中、最初はターゲットサーバブレードがフロントI/Oモジュール (DVDとUSB) に割り当てられ、次にOSとServerViewがインストールされます。インストールシーケンスで、サーバブレードは1台ずつ処理され、左端のベイ (ベイ番号の小さい順) のサーバブレードから処理が開始されます。
インストールされたブレードには、次の命名規則に従って名前が付けられます。
"Blade-<スロット番号>-<7桁の動的な拡張子>"
MMBの地域設定 (タイムゾーンと言語) がインストールされたOSに適用されます。
 - **ターゲットストレージデバイスがSVIMで選択される方法**
RAID設定はオンボードRAIDコントローラで制御され、SV RAIDマネージャによってSVIMインストールセッションの一部として設定されます。
 1. 既存のRAIDアレイを使用することを推奨します。
RAIDコントローラで検出された最初の論理ディスクは優先インストールターゲットとして使用されます。通常、RAIDコントローラの順序は、サーバブレードの内部コントローラ→外部 (ストレージブレード) コントローラです。
 2. 論理RAIDディスクが検出されなかった場合、IDE/SCSI/SAS ドライブグループがスキャンされます。このデバイスクラスに1つ以上の論理ディスクがある場合、リストの最初のものが新しいターゲットデバイスとして使用されます。
 3. IDE/SCSI/SASディスクがない場合、設定されていないすべてのRAIDコントローラが検出されます。ディスクが接続されたリスト内の最初のコントローラがターゲットインストールデバイスとして設定されます。

注: いずれの場合でも、ターゲットディスクに既存のデータがある場合は、デプロイメント中に削除されます。

- インストールの中止
このボタンによって、確認のメッセージ「現在のインストール（シーケンス）を中断しますか？」が表示され、「中止の確認」と「キャンセル」ボタンが有効になります。
- 中止の確認
このボタンをクリックすると、現在のインストール（シーケンス）が中断されます。OSのインストールをファイナライズするために既に起動されているサーバブレードのOSインストールは中断できません。
- キャンセル
このボタンをクリックすると、中断要求がキャンセルされます。現在のインストール（シーケンス）が続行されます（中断されません）。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- OSをインストールするオプションは、「User」の役割から取り出せます。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。
- すべての役割について、選択したサーバブレードにアクセスを制限できます。

インストールベースの変更

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページでは、新しいバージョンのSVIM (ServerView Installation Manager) をインストールできるため、MMBファームウェアをアップデートせずに新しいオペレーティングシステムをインストールできます。WebブラウザのローカルシステムでSVIMコンフィギュレーションファイル (InstallOsDef.xml) を検索できます。これは各SVS DVD 1のルートフォルダにあります。このファイルをインポートした後、SVIMバージョンとサポートするOSエディションが確認され、その両方が表示されます。管理者はこれを使用して、現在のバージョンと新しいバージョンを比較できます（特殊なMMB特権「ブレードシステム設定」が必要*）。MMBで使用される新しいバージョンが確認されると、新しいファイルが有効になります。

* これはローカルユーザーにのみ適用されます。グローバルユーザーの

場合、役割（権限）「Administrator」または「Maintenance」を持つ場合のみ可能です。

注: アップデートされた"InstallOsDef.xml"ファイルは、MMBが次にリブートされた（またはMMB 2台の場合は役割が変更された）後に有効になります。その後、MMVファームウェアのデフォルトの"InstallOsDef.xml"バージョンが再度有効になります。

オプション

- 現在のインストールベースバージョン
現在の"InstallOsDef.xml"ファイルのSVIMバージョンが表示されます。
- サポートするOSエディション
現在使用可能なOSがすべて一覧表示されます。この一覧はスクロールできます。
- 新しいインストールベースファイル
現在のバージョンよりも新しい"InstallOsDef.xml"ファイル（たとえば、新しいSVS DVD 1のルートフォルダ）を参照して、選択します。
- 新しいインストールベースファイルの版数
新しい"InstallOsDef.xml"ファイルのSVIMバージョンが表示されます。
- ファイルのチェック
選択したファイルの妥当性を確認します。
- サポートするOSエディション
新しいインストールベースで使用可能なOSがすべて一覧表示されます。この一覧はスクロールできます。
- アップデート
このボタンをクリックすると、「現在のインストールベースを新しい版数に置き換えるもよろしいですか？」という確認メッセージが表示され、「アップデートの確認」ボタンと「キャンセル」ボタンがアクティブになります。
- アップデートの確認
現在の"InstallOsDef.xml"を新しいファイルの版数に置き換えます
- キャンセル
現在の"InstallOsDef.xml"はアクティブなままになります。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」 ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」 および「Operator」 の役割から取り出せます。

バックアップ/リストア – BIOS

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページには次のタブがあります。

[バックアップ](#) [復元](#)

[↑](#) [バックアップ](#)

選択されたサーバブレードのすべてまたは一部のパラメータセットの保存を許可します。

- サーバブレードのBIOSパラメータ
BIOS設定をバックアップするサーバブレードを1つ選択します。

現在のBIOS設定

選択されたサーバブレードの現在のBIOS情報を表示します。

バックアップするパラメータセット（完全）

グループまたは詳細項目でバックアップするパラメータを選択します

。

バックアップ方法の設定

バックアップ先を指定し、バックアップを開始します。

[↑](#) [復元](#)

指定したBIOS情報を1台以上のサーバブレードにリストアすることを許可します。

復元元

照合機能によって1台以上のサーバブレードにリストアされるバックアップファイルまたはサーバブレードの選択を許可します。

BIOS設定を復元

バックアップファイルまたは選択したサーバブレードからパラメータを取得して、リストア前に直接変更できます。

復元パラメータの設定（完全）

グループまたは詳細項目でリストアするか選択します。

復元

リストア先を指定し、リストアを開始します。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」 ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」 および「Operator」 の役割から取り出せます。

バックアップ/リストア - iRMC

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページには次のタブがあります。

[バックアップ](#) [復元](#)

[↑ バックアップ](#)

iRMCの設定をバックアップするサーバブレードを選択し、選択したパラメータを使用してバックアップを実行します。

この機能により、サーバブレードのサービスプロセッサ (iRMC) 構成を使用して追加のサーバブレードの構成を簡素化することができます。このためにセクタa)ユーザー管理およびb) IPネットワークから定義された設定値 (iRMC 設定変数) はメディア (USB、メモリ、ローカルファイル) にバックアップされます。

バックアップを正常に実行するには、MMBのステータスディスプレイが緑に点灯している必要があります。

[↑ 復元](#)

リストア元メディアからiRMC設定をロードし、選択したサーバブレードにパラメータをリストアします。

リストアを実行するには、事前にバックアップが完了しており、該当するバックアップファイルがUSBを介して使用可能であるか、すでにマネジメントブレードのメモリに格納されている必要があります。バックアップファイルに収録された設定データを編集し、1台のサーバブレードまたは同じタイプの複数台のサーバブレードにコピーできます。これにより、サーバブレードのサービスプロセッサがすべて同じ設定になります。

リストアを正常に実行するには、MMBのステータスディスプレイが緑で点灯している必要があります。

↑ ロールの配布に基づく権限

ユーザーに割り当てられるロールは、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つのロールに以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

アセットタグ管理

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

アセットタグ管理によって、現在のすべてのアセットタグを1回で変更できます。ユーザーは以下のコンポーネントに対して識別用のASCII文字列を40文字までで定義できます。

- システムユニット自体
- マネジメントブレード
- サーバブレード
- ストレージブレード
- コネクションブレード

注意：すべてのアセットタグは固有にしてください。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」、「OEM」、および「Operator」の役割で、特定のコンポーネントにアクセスを制限できます。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。
- 「User」の役割では設定を指定できません。

ファームウェアアップデート

目次 | 用語 | アイコン

このページには次のタブがあります。

[マネジメントブレード](#) [サーバブレード](#)

 [マネジメントブレード](#)

マネジメントブレードのファームウェアTFTPアップデート

- **TFTP サーバIPv4 アドレス**
ファームウェアのイメージファイルを含むTFTPサーバのIPv4アドレスを設定します。
- **TFTP サーバIPv6 アドレス**
ファームウェアのイメージファイルを含むTFTPサーバのIPv6アドレスを設定します。
注: あらかじめIPv6を「設定」→「ネットワークインターフェース」→「管理LAN」で有効にしておく必要があります。
- **TFTP サーバの**
ファームウェアファイル名
ファームウェアのイメージファイル名を設定します。
- **TFTP アップデートを有効にする**
ファームウェアフラッシュプロセスのターゲットを選択してください。
 - 無効化: デフォルトで、IPアドレスとイメージファイル名を保存します。

TFTPアップデートが有効である場合（シングルMMBファームウェアアップデート／デュアルMMBファームウェアアップデートが有効）、「適用」ボタンをクリックすると、TFTPファームウェアアップデート設定が保存され、ファームウェアアップデートが開始されます。

マネジメントブレードのファームウェアファイルアップデート

- **アップロードファイルの選択**
Webブラウザでファイルダイアログボックスを開き、ファームウェアのイメージファイルをローカルデバイスから選択します。
- **ファイルアップデートを有効にする**
ファームウェアフラッシュプロセスのターゲットを選択します。

「適用」ボタンをクリックすると、ファームウェアファイルイメージがブラウザからMMB Webサーバにアップロードされます。

アップデート状況

アップデートの状態に関する情報を提供します。

↑ サーバブレード

アップデートするサーバブレード

ボックスは以下のように構成されます:

- **[サーバの選択]**
1つ以上のサーバブレードを選択します。
- **スロット**
ブレードのスロット番号を表示します。
- **動作ステータス**
アイコンで運用状態を表示します。
- **製品名**
製品名を表示します。
- **ファームウェア版数**
BIOSおよびiRMCのファームウェアバージョンを表示します。
- **ポート**
アップデートに使用するポートを表示します。
- **アップデート**
アップデート対象のファームウェアを表示します (BIOSまたはiRMC、以下の「設定のアップデート」ボックスを参照)。
- **TFTPアドレス**
アップデートに使用するTFTPアドレスを表示します。
- **ファイル名**
ダウンロードサーバ上での、新しいファームウェアを含むパスとファイル名を表示します。
- **状態**
アップデートの状態に関する情報を提供します。

「すべての状態のクリア」ボタンをクリックすると、このボックスの最後の4列にあるすべてのエントリが削除されます。

設定のアップデート

- **アップデート**
アップデートするファームウェアを選択します (BIOSまたはiRMC)。
- **TFTPアドレス**
アップデートに使用するTFTPアドレスを選択します。
- **ファイル名**
ダウンロードサーバ上での、新しいファームウェアを含むパスとファイル名を選択します。

「テスト接続」ボタンをクリックすると、TFTPアドレス、ファイル名、選択されたサーバブレードを使用できるかどうかが確認されます。結果は、上のボックスの「状態」列に表示されます。

「開始」ボタンをクリックすると、ファームウェアのアップデートが開始します。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

サーバ証明書

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページには次のタブがあります。

[証明書](#) [証明書署名要求](#)

↑ 証明書

SSL/SSH証明書の詳細（版数、シリアル番号、署名アルゴリズム、有効期間、被認証者名、発行者名など）を表示します。

証明書のアップロード

空白のフィールドに秘密鍵と証明書を貼り付けることができます。

↑ 証明書署名要求

証明書署名要求(CSR)の生成

- **公開鍵のサイズ**
公開鍵のサイズを選択します。
- **国名**
国名を選択します。
- **地域名**
地域名を入力します。

- **設置場所**
設置場所を入力します。
- **組織**
組織名を入力します。
- **部署名**
組織の部門ごとに異なる証明書が存在する場合に必要です。
- **通常名**
一般に、通常名はホストとドメイン名で構成されます。証明書がインターネット（または内部ネットワーク）上で有効である場合、通常名を1つの語で表すことも、サーバブレードの名前につくこともできます。
- **電子メールアドレス**
連絡先電子メールアドレス。

証明書署名要求または秘密鍵のダウンロード

- **署名要求のダウンロード**
マネジメントブレードから証明書署名要求ファイルをダウンロードします。
- **秘密鍵のダウンロード**
マネジメントブレードから秘密鍵をダウンロードします。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- OSをインストールするオプションは、「User」の役割から取り出せます。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

ユーザー証明書

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページでは次の情報を示します。

- **ユーザー名**
マネジメントブレードが証明書を発行するユーザー名を指定します。

- ユーザー証明書の
パスワード
ユーザー証明書のためのパスワードを入力します。
- パスワード(再入力)
確認のため、ユーザー証明書のためのパスワードを再度入力します。
- ユーザー証明書の発行を開始
ユーザー証明書を発行します。
- ユーザー証明書をダウンロード
発行されたユーザー証明書をダウンロードします。ユーザー証明書が発行されていないと、最初にユーザー証明書を発行することを求めるエラーメッセージが表示されます。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- OSをインストールするオプションは、「User」の役割から取り出せます。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

サービスLAN

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページでは次の情報を示します。

ポート設定

- 有効にするプロトコル版数
IPv4: MMBサービスポートに対してのみIPv4アドレスを有効にします。
IPv4とIPv6: MMBサービスポートに対してIPv4とIPv6アドレスを有効にします。
- デュプレックスモードの確認
MMBのサービスポートのNICの現在のデュプレックスモードを表示します。
- デュプレックスモードの設定
MMBサービスポートのNICのデュプレックスモードを設定します。

IPアドレス設定

- IPv4

- *IP アドレス*
MMBのサービスポートにIPv4アドレスを設定します。
- *サブネットマスク*
MMBのサービスポートのサブネットマスクを設定します。
- *ゲートウェイ*
MMBのサービスポートのゲートウェイを設定します。
- **IPv6**
 - *リンクローカルIP アドレス*
MMBのサービスポートのリンクローカルIPv6アドレスを表示します。
 - *グローバル静的IP アドレス*
MMBに固定IPv6アドレスを定義できるようにします。
 **アドレスの形式と省略のルール:**
IPv6アドレスは、コロンで区切られた16ビットの16進数の8グループで表現されます（例
2001:0db8:85a3:0000:0000:8a2e:0370:7334）。IPv6アドレスは、16ビット数値の先頭のゼロを省略したり（例
2001:db8:85a3:0:0:8a2e:370:7334）、ゼロの連続を2つのコロンで置換することができます（例
2001:db8:85a3::8a2e:370:7334）。
 - *グローバルステートレスIP アドレス*
ルータから取得したMMBサービスポートの1つ以上のIPv6アドレスを表示します。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

管理LAN

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページには次のタブがあります。

[ネットワークの設定](#) [VLAN](#) [IP フィルタリング](#)

↑ ネットワークの設定

ポート設定

- 有効にするプロトコル版数
 - *IPv4*
IPv4アドレスをMMB管理ポートに対してのみ有効にします。
 - *IPv4 と IPv6*
IPv4およびIPv6アドレスをMMB管理ポートに対して有効にします。
- ダウンリンクポート
 - デュプレックスモードの確認
MMBの管理ポートのNICのデュプレックスモードを表示します
 - デュプレックスモードの設定
MMBの管理ポートのNICのデュプレックスモードを設定します
 -

IPアドレス設定

- IPv4
 - *DHCPを有効にする*
MMBのIPアドレスに対してDHCP機能を有効または無効にします。
 - *IPアドレス*
MMBのIPv4アドレスを設定します。
 - *サブネットマスク*
MMBのサブネットマスクを設定します。
 - *ゲートウェイ*
MMBのゲートウェイを設定します。
- IPv6
 - *リンクローカルIPアドレス*
管理ブレードのリンクローカルIPv6アドレスを表示します。
 - *グローバル静的IPアドレス*
MMBに固定IPv6アドレスを定義できるようにします。
アドレスの形式と省略のルール:
IPv6アドレスは、コロンで区切られた16ビットの16進数の8グループで表現されます（例
2001:0db8:85a3:0000:0000:8a2e:0370:7334）。IPv6アドレスは、16ビット数値の先頭のゼロを省略したり（例
2001:db8:85a3:0:0:8a2e:370:7334）、ゼロの連続を2つのコロンで置換することができます（例 2001:db8:85a3::8a2e:370:7334）。
 - *グローバルステートレスIPアドレス*
ルータから取得した1つ以上のIPv6アドレスを表示します。
 - *DHCPv6を有効にする*
MMBに対してDHCPv6機能を有効または無効にします。

- グローバルステートフルIPアドレス
DHCPv6サービスから取得したグローバルIPv6アドレスを表示します。

DNSの設定

DNS設定をDHCPから取得したり、2つのドメイン名サーバを設定して名前を解決することができます。

- DNSv4
 - *DHCPからDNS設定を取得*
DNSv4構成に対してDHCP機能を有効または無効にします。
 - *DNSサーバ1*
プライマリDNSサーバのIPv4アドレスを指定します。
 - *DNSサーバ2*
セカンダリDNSサーバのIPv4アドレスを入力します。
- DNSv6
 - *DHCPからDNS設定を取得*
DNSv6構成に対してDHCP機能を有効または無効にします。
 - *DNSサーバ1*
プライマリDNSサーバのIPv6アドレスを指定します。
 - *DNSサーバ2*
セカンダリDNSサーバのIPv6アドレスを入力します。

IPMIベースのアクセス

- *IPMI over LAN*を有効にします。
IPMIを有効または無効にします。
- ポート
IPMI規格ポート番号を表示します。

Webベースのアクセス

- *HTTPポート*
HTTPのポート番号を設定します。
- *HTTPSを有効にする*
SSLにHTTPを有効または無効にします。
HTTPポートの変更またはHTTPSの有効化/無効化は、「適用」ボタンをクリックしてから最大15秒後に反映されます。
- *HTTPSポート*
HTTPsのポート番号を設定します。
- *強制HTTPSの有効*
「HTTPSを有効にする」（上記）を有効にしても、HTTP経由のアクセスは可能です。このオプションによって、HTTPがHTTPSにリダイレクトされ、HTTPSアクセスが強制されます。
- *クライアント認証を有効にする*
クライアント認証では、MMB証明書に基づくユーザー証明書を作成

し、これをWebブラウザにインポートする必要があります。ユーザー証明書は、「操作」→「証明書の操作」→「ユーザー証明書」で作成できます。

WS-Man

- *WS-Manを有効にする*
WS-Manプロトコルを有効または無効にします。
- *WS-Manポート*
WS-Man規格ポート番号を表示します。

テキストベースのアクセス

- *Telnetを有効にする*
Telnetサービスを有効／無効にします。
- *Telnetポート*
Telnetのポート番号を設定します。
- *SSHを有効にする*
SSH機能を有効／無効にします。
- *SSHポート*
SSHのポート番号を指定します。

セッションタイムアウト

Webベース/テキストベースアクセス
のセッションタイムアウト時間 (30~65535)

タイムアウト設定 (秒単位)。ユーザー入力がシステムによって受信されない場合、管理セッションおよびサービスセッションは指定した時間が経過すると、自動的に停止されます。

↑ VLAN

MMBは最大27のVLANグループをサポートします。共通VLAN IDを持つネットワークデバイスのグループがVLANグループです。すべてのVLANグループの設定が表示されます。処理するには、「VLANグループ情報」テーブルの最初の列でVLANグループを選択します。

VLANグループ情報

- *グループ名*
VLANグループ名を表示します (デフォルトまたは定義済み)。
- *有効なグループ*
該当するVLANグループが有効か無効かを表示します。
- *グループID*
VLANグループを特定します。

- **有効なDHCP**
DHCPが各VLANグループで有効か無効かを表示します。
- **VLAN IP アドレス**
VLAN IPアドレスを表示します。
- **VLANネットワークマスク**
VLANネットワークマスクを表示します。
- **適用**
「適用」ボタンをクリックして設定を有効にします。

VLANグループの設定

- **グループを有効にする**
選択したVLANグループをここで有効または無効にできます。
- **グループ名**
ここでデフォルト名を受け入れるか、または選択したVLANグループの名前を入力できます（最大14文字）。
- **グループID (2-4094)**
許可された範囲に応じて数値を入力します。
① "0"を設定すると、VLANグループIDが削除されます。VLANグループが有効なときにこれを実行すると、グループが無効になり、グループIDが削除されます。
- **DHCPを有効にする**
選択したVLANグループに対してDHCPを有効または無効にします。
- **VLAN IP アドレス**
デフォルト設定を受け入れるか、または選択したVLANグループにIPアドレスを設定します。
- **VLANネットワークマスク**
デフォルト設定を受け入れるか、または選択したVLANグループにネットワークマスクを設定します。
- **適用**
「適用」ボタンをクリックして設定を有効にします。

↑ IPフィルタリング

マネジメントブレードでは、HTTP/HTTPS、SSH、SNMP、Telnet、およびIPMI over LANの有効なIPアドレスを最大10まで設定できます。デフォルト値は255.255.255.255（すべてのIPアドレスを許可）です。

許可するプロトコルの設定

グローバルに許可できるプロトコルタイプを選択します。

IPフィルタリングの設定表示

ここに、アクティブなIPフィルタ設定が一覧表示されます。

新しいIPフィルタリング

マネジメントブレードにアクセスできるサブネットマスクの形式で、許可できるプロトコル、IPアドレス、またはIPアドレスの範囲を指定できます。

たとえば、MMBのIPアドレスが10.10.10.80の場合、次のIPフィルタを使用（適用）できます。

1. IPフィルタ10.255.255.255 : IPが10.xx.xx.xxでネットマスクが255.0.0.0のクライアントがMMBに接続できます。
2. IPフィルタ10.10.255.255 : IPが10.10.xx.xxでネットマスクが255.0.0.0または255.255.0.0のクライアントがMMBに接続できます。
3. IPフィルタ10.10.10.255: IPが10.10.10.xx、ネットマスクが255.0.0.0または255.255.0.0または255.255.255.0の任意のクライアントがMMBに接続できます。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

AuDi-MIP

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページには次のタブがあります。

[基本](#) [詳細](#)

AuDi-MIPの概念は、内部DHCPサーバをMMBで使用して、1つのブレードシステムまたは相互接続したブレードシステム内のすべてのマネジメントコントローラにIPアドレスを割り当てるというものです。

↑ 基本

- *AuDi-MIPを有効にする*
管理IPアドレスの自動配布を有効または無効にします。
- *VLANグループ名*
VLANグループを設定します。

AuDi-MIP設定

- *全て/詳細情報*
「全て」を選択すると、1つのIPアドレス範囲内のサーバブレードとコ

ネクションブレードとマスターマネジメントブレードが含まれます。サーバブレードおよびコネクションブレードごとにIPアドレスを指定するには、「詳細情報」を選択します。

- **IPアドレスの範囲**
アドレス範囲の最初のアドレスと最後のアドレスを入力します。
- **サブネットマスク**
サブネットマスクを入力します。
- **ゲートウェイ**
ゲートウェイアドレスを入力します。

AuDi-MIP iRMC設定

このセクションの入力フィールドは、上記の「詳細情報」が選択されている場合にのみ使用できます。IP範囲は使用できるブレードの最大数以上にしてください。BX900=18、BX400=8です。また、「マネジメントブレードを含める」を選択している場合は、これに1を加えます。

- **IPアドレスの範囲**
アドレス範囲の最初のアドレスと最後のアドレスを入力します。
- **マネジメントブレードを含む**
MMBアドレスを含めるか、除外します。

AuDi-MIPコネクションブレード管理コントローラ設定

このセクションの入力フィールドは、上記の「詳細情報」が選択されている場合にのみ使用できます。IP範囲は使用できるブレードの最大数以上にしてください。BX900=8、BX400=4です。また、「マネジメントブレードを含める」を選択している場合は、これに1を加えます。

- **IPアドレスの範囲**
アドレス範囲の最初のアドレスと最後のアドレスを入力します。
- **マネジメントブレードを含む**
MMBアドレスを含めるか、除外します。

DNSの設定

- **DNS ドメイン**
DNS ドメインの名前またはIDを入力します。
- **DNS サーバI/2**
DNS サーバのIPアドレスを入力します。

NTPサーバ

- **NTP サーバI/2**
NTP サーバのIPアドレスを入力します。
- **適用**
「適用」ボタンをクリックして設定を有効にします。

 「適用」ボタンを押した後、確認のページが表示され、管理IP設定の詳細な影響が表示されます。重要: DHCPは対象のすべてのブレードの管理コントローラのIP設定に対して設定され、AuDi-MIPの「詳細」ページでのIP設定が置き換えられます。

↑ 詳細

このページでは、各デバイスにIPアドレスを個別に割り当てられます（サーバブレードに18のiRMCアドレス、コネクションブレードに8つのアドレス、マスターMMBに1つのアドレス）。

- **AuDi-MIPを有効にする**
管理IPアドレスの自動配布を有効または無効にします。
- **VLANグループ名**
VLANグループを設定します。

iRMC

指定された設定のサーバブレードを選択して、使用するIPアドレスを入力します。

コネクションブレードの管理コントローラ

指定された設定のコネクションブレードを選択して、使用するIPアドレスを入力します。

マネジメントブレード

マスターマネジメントブレードを選択して、使用するIPアドレスを入力します。

- **表示の更新**
このボタンは、システムユニットで現在アクティブな管理IPアドレスを表示します。
- **デフォルト**
このボタンにより、デフォルトの管理IPアドレスがすべてのエントリーフィールドに自動的に入力されます。
- **適用**

「適用」ボタンをクリックして設定を有効にします。

 「適用」ボタンを押した後、確認のページが表示され、管理IP設定の詳細な影響が表示されます。"

重要: DHCPは、装備されているすべてのブレードのマネジメントコントローラのIP設定に対して設定されます。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」 ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」 および「Operator」 の役割から取り出せます。

SNMP

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページには次のタブがあります。

[基本](#) [SNMP V3設定](#)

[↑ 基本](#)

SNMPを有効にする

SNMPを有効/無効にします。 または、SNMP規格ポート番号が表示されます。

。

SNMPコミュニティ

SNMPコミュニティの一覧を表示します。

コミュニティの追加

コミュニティ名を入力し、アクセス権限を選択します。 次に、「追加」 ボタンをクリックすると、新しいコミュニティを追加できます。 この一覧には最大で5つのコミュニティを追加できます。

SNMPトラップの送信先

SNMPトラップの送信先の一覧を表示します。 SNMPトラップの送信先は、マネジメントブレードが送信するトラップの受信者です。 したがって、受信者は同じコミュニティに属している必要があります。 この一覧に最大5つの送信先を追加できます。

新しいトラップの送信先

トラップ受信者のIPアドレスまたは受信者のDNS名を入力する必要があります。

[↑ SNMP V3設定](#)

V3ユーザー設定

最大10のユーザー アカウントを設定できます。

- ユーザーの選択
ユーザーNを選択します。

- ユーザーN
選択したユーザーNの名前を入力します。
- ユーザーの権限
読み取り／書き込み権限を選択します。
- セキュリティレベル
セキュリティレベル（「認証」、「認証を行わない」、「暗号化」）を設定します。
- 認証アルゴリズム
認証に使用するアルゴリズムを指定します。「MD5」「SHA」のどちらかを選択してください。
- 認証パスワード
認証パスワードを入力します。
- 暗号化パスワード
暗号化パスワードを入力します。

SNMP V3のトラップ送信先

SNMP V3トラップの送信先の一覧を表示します。SNMP V3トラップの送信先は、マネジメントブレードが送信するトラップの受信者です。

新しいトラップの送信先

新しい送信先を追加するには、トラップの送信先アドレスを入力し、「ユーザー」と「イベントの種類」を選択します。最大で5つの送信先を追加できます。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

リモート通知

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページではイベントのフィルタリングを設定します。イベントが発生した場合、この設定が指定してある場合は通知の電子メールを送信できます。このページには次の2つのタブがあります。

[イベントの設定](#) [メール設定](#)

↑ [イベントの設定](#)

イベントログフィルタリング

イベントソースと対応するエラー転送レベル（SELレベルを送信する必要があります）を選択します。

サーバブレード電源投入／切断

サーバブレードの電源投入/切断をイベントログに記録する機能を有効／無効にします。

マネジメントブレードのイベントログ

マネジメントブレードの「ラップアラウンドイベントログ」機能を有効／無効にします。

↑ メール設定

メールを有効にする

- メール機能を有効にする
警告メール機能を有効／無効にします。
- メールフォーマット
メールフォーマット（ITSまたはREMCS）を設定します。

グローバルメールのページング設定

- *SMTP リトライ (0-7)*
SMTPサーバが応答に失敗した場合のリトライ回数（0-7）を設定します。
- *SMTP リトライまでの待ち時間 (0-255)*
SMTPサーバが応答に失敗した場合のリトライ間隔を秒単位で設定します。

プライマリSMTPサーバ設定 / セカンダリSNMPサーバ設定

- *SMTP サーバIPv4 アドレス*
SMTPサーバのIPv4アドレスを設定します。
- *SMTP サーバIPv6 アドレス*
SMTPサーバのドメイン名またはIPv6アドレスを設定します。
注: あらかじめ、IPv6を「設定」→「ネットワークインターフェース」→「管理LAN」で有効にしておく必要があります。
- *SMTP ポート (1-65535)*
SMTPサーバのポート番号を設定します。
- *認証タイプ*
認証の種類（「Auth-Login」、「Auth-Plain」、「Auth-Cram-md5」）を選択します。
- *認証ユーザー名*
認証ユーザー名を入力します。

- **認証パスワード**
認証パスワードを入力します。

送信するメールフォーマットの設定

送信元の電子メールアドレス、管理者名、および電話番号を設定できます。
最大5個の電子メールアドレスがサポートされます。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

日付と時刻

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページには次のブロックがあります。

コントローラ時刻

マネジメントブレードの日付と時刻を設定します（形式はMM/DD/YYYYとHH:MM:SS）。

タイムゾーン

このシステムのタイムゾーンを設定します。

ネットワークタイムプロトコル(NTP)

- **NTPを有効にする**
NTP機能を有効／無効にします。

IPv4:

- **NTPサーバ1**
NTPサーバのIpv4アドレスを入力します。
- **NTPサーバ2**
代替NTPサーバのIPv4アドレスを入力してください。注：フェイルオーバーのため、NTPサーバは2つ指定してください。

IPv6:

- **NTP サーバ1**
NTPサーバのIPv6（またはDNS）アドレスを入力します。
- **NTP サーバ2**
代替NTPサーバのIPv6（またはDNS）アドレスを入力してください。注：フェイルオーバーのため、NTPサーバは2つ指定してください。
注：あらかじめIPv6を「設定」→「ネットワークインターフェース」→「管理LAN」で有効にしておく必要があります。
- **時刻の同期モード**
時刻の同期モードは2つあります。
 - **遅れているときに同期**
マネジメントブレードの時刻がNTPサーバの時刻よりも遅れているときのみ、マネジメントブレードの時刻をNTPサーバの時刻に合わせます。
 - **常に同期**
マネジメントブレードの時刻を常にNTPサーバの時刻に合わせます。
- **最終同期日付/時刻**
マネジメントブレードがNTPサーバと最後に合わせた時刻を表示します。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

更新

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

このページでは次の情報を示します。

- **標準ユーザインターフェース**
 - **自動更新サイクル (5-59)**：自動更新の更新間隔を秒単位で設定します。
- **高度なユーザインターフェース**
 - **自動更新を有効にする**：自動更新機能を有効／無効にします。
 - **自動更新サイクル (1-15)**：自動更新の更新間隔を分単位で設定します。

ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

言語

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

WebインターフェースとLCDパネルに表示される言語を設定できます。

「表示言語の同期」が有効になっている場合、言語の選択は同時に両方のインターフェースに適用されます。

ロールの配布に基づく権限

ユーザーに割り当てられるロールは、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つのロールに以下の制約が適用されます：

- 「User」ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」および「Operator」の役割から取り出せます。

基本設定ウィザード

[目次](#) | [用語](#) | [アイコン](#)

基本設定ウィザードで、システムを起動できます。ウィザードは、ユーザーが初めてWeb UIにサインインすると表示され、最初に正常に完了するまで表示されます。

- 言語の選択

WebインターフェースとLCDパネルに表示される言語を設定できます

-

- 日付と時刻の設定
マネジメントブレードの日付と時刻を設定します（形式はMM/DD/YYYYとHH:MM:SS）。
- 設定のインポート
システムユニットの設定をUSBメモリまたはローカルファイルからシステムユニットにインポートします。
- 識別情報設定
識別情報により、システム名、ラック名、システム管理者、システムの設置場所を設定します。
注意: システム名は14文字以下です。
- ネットワーク設定
 - IPv4
DHCPを有効にして、IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、および2つのDNSサーバのIPアドレスを設定します。
💡 "個別コンポーネントの場合": 個々の設定は、選択したコンポーネントの基本設定ウィザード以外で指定する必要があります
◦ (BX900のみ)
 - IPv6
IPv6とDHCPv6を有効にして（IPとDNS設定用）、2つのDNSアドレスを定義するスピンボックスを表示します。
 - AuDi-MIP
AuDi-MIPを有効にできます。IPアドレスは共通IPアドレス範囲を使用して、サーバとコネクションブレードに配布されます。
注: コンポーネントタイプの開始アドレスを少なくとも1つ定義する必要があります。
- コネクションブレード設定 (BX400のみ)
システムユニットの最初のコネクションブレードに名前を設定し、IPプロトコルバージョンとDHCPを有効にできます。またはIPv4設定を指定できます。
- フロントサイドI/O設定 (BX400のみ)
後でフロントサイドI/Oモジュール（USB/DVD）に接続できるサーバブレードを事前設定できます。フロントサイドI/Oモジュールを後で使用するには、ここで許可されたサーバブレードの1つを「情報／操作」→「操作」→「フロントサイドI/O管理」→「割り当て」でモジュールに割り当てる必要があります。
- 電源管理設定
電源ユニット管理の設定、ダイナミックモードおよび冗長レベルの調整、消費電力の表示単位（WattまたはBTU/h）の選択ができます。
- 暗証番号設定
暗証番号を設定します。暗証番号により、LCDパネルが不正アクセスから保護されます。
- ハードウェアチェック
Ekeying不一致エラーの数を表示します。各エラーの詳細を確認できます。

- **設定の保存**

現在のシステムユニットの設定をローカルファイルまたはUSBメモリのファイルにコピーします。

↑ ロールの配布に基づく権限

ローカルユーザーに割り当てられる役割は、「User」、「OEM」、「Operator」、「Administrator」の4つがあります。ここでは、これらの4つの役割に以下の制約が適用されます：

- 「User」 ロールでは、アクセスできません。
- 設定を指定するオプションは、「OEM」 および「Operator」 の役割から取り出せます。